

商法再調査案



# 商法再調查案

自第一條  
至第六十八條

第七百九十九號 上冊 內	司法部記錄文庫
--------------------	---------

第 五	第 六 架	第 六 號
--------	-------------	-------------

司法部  
第三六號  
寄贈圖書文庫



高法再調查案

自第一條  
至第二百七十八條



XB400  
S 16  
1

商法

總則

第一條

商事ニ於テ此法律ニ規定ナキモノニ

付テハ

商ト慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス

第二條

特種ノ商人又ハ商事ノ爲メニ發布シ

タル法律命令及ヒ規則ノ効力ハ此法律ニ因

リ妨ケラル、ト無シ

第一編

商トノ通則

第一章

商事及ヒ商人

第三條

商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタ

ルニ拘ハラス總テノ商ト取引及ヒ其他此法

律ニ規定シタル事項ヲ謂フ

第四條

商ト取引トハ賣買貸貸又ハ其他ノ取



捌ノ方法ニ因リ産物、商品又ハ有價證券ノ轉  
 換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル趣  
 旨ニテ直接又ハ間接ニ行ノ所ノ總テノ權利  
 行爲ヲ謂フ殊ニ左ニ掲クルモノハ商ヒ取引  
 一 爲ス  
 第一 産物ノ交換販賣ヲ目的トスル取引  
 第二 製造工業及ヒ手職業ノ範圍内ニ在ル  
 作業及ヒ取引  
 第三 人及ヒ物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引  
 第四 航漕ニ係ル作業及ヒ取引  
 第五 建築ニ係ル作業及ヒ取引  
 第六 銀行營業ニ係ル作業及ヒ取引  
 第七 流通ニ得ヘキ信用證券ノ發行及ヒ流

通ニ係ル作業及ヒ取引  
 第八 商ヒノ爲メ、爲シ又ハ受クル倉庫寄託  
 及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及ヒ取引  
 第九 船舶ノ賣買、賃入、抵當、構造、修繕、機装及  
 ヒ束組ニ係ル作業及ヒ取引  
 第十 取引所取引ニ係ル作業及ヒ取引  
 第十一 保険ニ係ル作業及ヒ取引  
 第五條 其他左ニ掲クルモノハ之ヲ商ヒ取引  
 卜首做ス  
 第一 公ニ関キタル店舖、帳場若クハ其他ノ  
 營業所ニ於テ又ハ公告ヲ爲シテ營ム兩替  
 及ヒ利息若クハ其他ノ報酬ヲ受クル金銭  
 貸付



第二 新聞紙及ヒ其他ノ定期印刷物ノ発行

第三 商事ニ於ケル各般ノ代理

第四 公ナル周旋所及ヒ代辦ノ營業

第五 公ナル共歡場及ヒ遊娛場ノ營業

第六 受負作業ノ引受

第六條 商人其營業上ニ於テ取結ヒ又ハ他ノ商人若クハ作業人ト取結ヒタル取引ハ反對

第七條 證ナキ片ハ之ヲ商ヒ取引ト者做ス

第七條 左ニ掲クルモノハ之ヲ商ヒ取引ト者做サス

第一 戸々ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品又ハ

勞役ヲ賣ル丁但常設ノ營業所ヨリ出ツル

モノハ此限ニ在ラス

第二 專ラ勞力賃ノミヲ得ルノ目的ニテ商

品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲ス

第三 他人ノ爲メニ働作又ハ勞役ヲ賃約ス

ル1 但此法律中此等ノ契約ニ關スル規定

ヲ掲ケサル片ニ限ル

第四 所有地又ハ借地ヨリ收獲シタル產物

ヲ賣ル丁但營業ノ目的ヲ以テセサルモノ

ニ限ル

第八條 不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契

約ハ商ヒ取引ニアラス但射利ヲ趣旨トセ

ルモノニ限ル

第十條 契約ニ因リ獨立シテ義務ヲ負フ丁ヲ

得ル各人ハ一時ノ商ヒ取引ナルト常時ノ商



業ヲハルトトクハ問ハス總テ商ヒテ爲スルヲ得但

第十七條 會社及ヒ其他ノ無形人カ商業ヲ營ム

片ハ亦商業ニ付キ設ケタル規定ヲ遵守スル

第十九條 農作、牧畜及ヒ捕漁ノ營業ヲ營ム者ハ

第十八條 男女ヲ問ハス未成年者ニシテ年齢

獨立ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヒテ爲スルヲ得

欲スル片ハ法律上ノ要件ヲ明記シ且自己及

第十條 成年者ト全ク同一ナルモノトス

得テ商ヒテ爲スルヲ得此承諾ハ其婦法律上

必要ノ給養ヲ受ケサル片ハ之ヲ得ルヲ要

第十四條 商人ト省做サス

テハ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ

婦ハ商ヒノ債務ニ付テハ財産ニ對シ夫

七 父又ハ後見人ノ署名シタル陳述書ヲ管轄

裁判所ニ差出シ登記ヲ受クヘシ然ル片ハ其

登記ノ日ヨリ商事ニ於テ總テノ權利及ヒ義

務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス

得テ商ヒテ爲スルヲ得此承諾ハ其婦法律上

必要ノ給養ヲ受ケサル片ハ之ヲ得ルヲ要

第十四條 商人ト省做サス

テハ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ

婦ハ商ヒノ債務ニ付テハ財産ニ對シ夫



ニ屬スル管理權又ハ其他ノ權利アルニ拘ハ  
ラス自己ノ全財産ヲ以テ其責任ヲ負ノ夫  
ノ承諾ヲ得テ商ヒテ爲ス場合ニ於テハ夫婦  
間ニ財産共通ノ存スル片ハ限リ共通財産モ  
亦其責任ヲ負フ

第十五條

配偶者ノ一方カ商ヒテ爲シ夫婦間  
ニ財産共通ヲ爲サズル片又ハ之ヲ解キタル  
片ハ此等ノ契約ヲ取結ビタル後直ニ商業  
登記簿ニ登記ヲ受クル爲メ其事實ヲ届出ツ  
ルヲ要ス

配偶者ノ間ニ在テハ商事會社ハ成立スル  
ヲ得ス  
法律上禁セテ久總テハ取リ又ハ法律上特ニ規定セラ  
ズル片ハ商業ヲ營ム片ハ

第十六條

其人ノ爲シタル取引ノ効力ハ此理由ノ爲メ  
公衆ノ爲メ申述スルハ得ス然レモ法律上禁  
止スルハ此理由總テノ商取引又ハ法律上特ニ規  
定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサル者ノ爲  
メトシタル總テノ商取引ハ無効トス

第十七條

取引ニ付テハ此法律ノ規定ヲ雙方ニ適用ス  
ルニ付テハ一方ノ者ノ規定ニ依リテ商取引  
トシタル片ハ此法律ノ規定ニ適用ス

第十八條

商號未成年者婚姻契約代務及ヒ會  
社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所ノ  
區裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事

第十九條

裁判所ヨリ官報及  
事務ハ其裁判所  
登記ハ其裁判所  
裁判所ヨリ官報及

△  
子モホ二重ラシ其各  
レニ關スルベシ



其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速カニ  
 之ヲ公告ス其新聞紙ハ豫メ一曆年ノ間之ヲ  
 定メ置ク<sup>判</sup>又各人ニ商業登記簿ノ縱  
 覽ヲ許シ且<sup>判</sup>騰寫料ヲ納ムル者ニ認證シタル  
 騰本ヲ請フ<sup>判</sup>ヲ許ス  
 登記及ヒ公告ヲ受クル毎ニ手数料ヲ納メシ  
 ム其額ハ勅令ヲ以テ一定平等ニ之ヲ定ム  
 第二十條 登記ヲ受ケントスル片ハ當事者ノ  
 署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任  
 狀ヲ受ケタル代理人ヨリ<sup>判</sup>出ツル<sup>判</sup>ヲ要ス  
 其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス  
 第二十一條 若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタ  
 ル片ハ當事者ヨリ其命令ニ對シ抗告ヲ爲ス

トテ得

登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ  
 第二十二條 登記シタル事項ハ公ニシテ且裁  
 判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ  
 已レノ過失ニアラサル<sup>判</sup>ヲ證シ得ルニア  
 ラサレハ之ヲ知ラサルヲ以テ已レヲ保護ス  
 ル<sup>判</sup>ヲ得ス然レ氏其事項ハ他ノ方法ニ因リ  
 之ヲ知り得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ  
 問ハス其効用ヲ致サシム但權利關係カ登記  
 ニ因リ始メテ生スヘキ例外ノ場合ハ其當事  
 ハ場處ニ於テ之ヲ定ム  
 第二十三條 裁判所ヨリ一回ノ催告ヲ受クル  
 モ此法律ニ規定シタル登記ノ申出ヲ爲サ、

刑  
ル



十三  
以下ノ過料ニ處ス但會社ニ付テハ第一章ニ  
ル者ハ裁判所ノ命令ヲ以テ十圓以上十五圓  
以下ノ過料ニ處ス但會社ニ付テハ第一章ニ

未定

### 第三章 商號

第二十四條 各商人ハ商號ヲ有シ之ヲ店前ニ  
掲示シ總テ商業上ニ署名ノ時及ヒ其他業務  
取扱ニ付キ自己ヲ表示スル爲メ同形ニ之ヲ  
書ス若シ一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ス片ハ  
各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルヲ要ス  
第二十五條 商號ノ新設變更又ハ廢止ハ之ヲ  
商業登記簿ニ登記ス他ノ地方ノ支店ニ付テ  
モ亦此手續ヲ爲ス商號專有ノ權利ヲ得取ル

### 第二十六條

同一營業上ノ商號ハ一地内ニ於  
テ同一ナルヲ得ス若シ商號主數人同氏ハ  
片ハ附號ヲ加ヘテ互ニ區別ス  
商號ハ營業者ノ氏ヲ以テスルヲ通例トス若  
シ會社ナルヲ表スル附號ヲ加フ但責任有  
限ノ社員ノ氏ハ商號中ニ用ユルヲ得ス  
第二十七條 相續ニ因テ商業ヲ引受クル者又  
ハ契約ニ因テ商業ト共ニ商號ヲ引受クル者  
ハ第八十條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外  
從前ノ商號ヲ續用スルヲ得  
又社員ノ退社又ハ入社シタル後ト雖モ從前  
ノ商號ヲ續用スルヲ得但退社員ノ氏ヲ商

三向号ハ登記ニ依リ  
同一營業上ノ付キ一地  
域内ニ於テ其專有  
ノ權利ヲ得取ル  
登記シタル高号ハ他  
人之ヲ用ユルヲ得ス  
但此は法律施行以前  
ヨリ有スル高号ハ  
從前ノ營業者ヲ  
変更セザルモノに依リ  
地域内ニ於テ  
同一ナルヲ得ナシ



號中ニ續用セントスル片ハ本人ノ承諾ヲ受クルヲ要ス

第二十八條 商號ハ其營業ト共ニスルニアラサレハ他人ニ轉付スルヲ得ス若シ營業ヲ

廢スル片ハ商號モ亦消滅ス

第二十九條 營業ト商號トヲ併セテ移付スル

片ハ其商號ヲ續用スルト之ヲ變更スルトヲ

問ハス取引ノ仕殘債務得意先及ヒ商業帳簿

モ共ニ移付スルモノト者做ス但持約アル片

ハ此限ニ在ラス

商號引受<sup>商號引受</sup>公告中ニ持約ヲ明掲セサル片ハ

其持約ハ第三者ニ對シテ無効トス

第三十條 營業ト商號トヲ併セテ移付スル者

更ニ其營業ヲ爲サルノ責務ヲ負擔シタル片ハ其責務ノ履行ハ爾後十年間其一地内ニ

限ル

第三十一條 他人ノ商號ヲ濫用シタル者又ハ

第二十九條及ヒ第三十條ニ記載シタル責務

ニ背ク者アル片ハ被害者ハ其加害所爲ノ停

止及ヒ損害賠償ヲ要求スルヲ得<sup>其</sup>損害ノ

有無及ヒ多寡ハ其營業ノ等位大小及ヒ加害

ノ度数若クハ長短ヲ斟酌シ證據ノミニ泥マ

スシテ判事之ヲ判決ス

第四章 商業帳簿

第三十二條 各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從

ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フルノ責アリ殊ニ



帳簿ニ日々其取扱ヒタル取引他人トノ間ニ  
 成立タル自己ノ権利義務受取り又ハ引渡  
 シタル商品支拂ヒ又ハ受取りタル金額ヲ整  
 齊且明瞭ニ記入シ又月々其家事費用及ヒ商  
 業費用ノ総額ヲ記入ス  
 小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ問ハス逐一  
 之ヲ記入スルヲ要セス日々ノ賣上總額ノ  
 入スルヲ要セス日々ノ賣上總額ノ  
 第三十三條 各商人ハ開業ノ時及ヒ爾後毎年  
 物ノ三ヶ月内ニ又ハ開業ノ時及ヒ爾後毎年  
 貸方借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳簿  
 = 記入シテ署名スルハ責アリ  
 財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ

商品債權及ヒ其他總テノ財產ニ當時ノ相場  
 又ハ市場價直ヲ附ス辨償ヲ得ルヲノ確カナ  
 ラサル債權ニ付テハ其推知シ得キ損失額  
 ヲ扣除シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ歸スヘ  
 キ債權ハ全ク之ヲ記載セス  
 第三十四條 毎半年又ハ毎半年内ニ利息  
 又ハ配當金ヲ社員ニ分配スル會社ハ毎半年  
 年ニ前條記載ノ責ヲ盡ス  
 第三十五條 各商人ハ十年間商業帳簿ヲ貯  
 藏シ火災又ハ其他ノ意外ノ事變ニ因テ喪失  
 又ハ毀損セサルニ注意スルノ責アリ  
 第三十六條 商人ノ商業帳簿ハ其一身ノ所有  
 物ニシテ破産又ハ會社清算ノ場合ヲ除クノ



外決シテ官権ヲ以テ之ヲ交付セシムルヲ得ス

第三十七條

然レ凡相續ニ關スル事件、共通ニ關スル事件、派分ニ關スル事件及ヒ業務取扱ニ關スル事件、争訟ニ付テハ裁判所ノ命令ニ應シテ檢閱ノ爲メ總テノ商業帳簿ヲ差出サ、ルヲ得ス

第三十八條

争訟中原告又ハ被告ノ申立アル片ハ受訴裁判所ハ相手方ノ商業帳簿ノ開示ヲ命シ其所有者ノ面前ニ於テ右争訟事件ニ關スル記入ノ檢閱又ハ時宜ニ因リ其謄寫ヲ爲サシム若シ其帳簿カ他ノ地ニ在ル片ハ右裁判所ハ其地ニ就キ又ハ其地ノ裁判所ニ囑

第三十九條

何人ニテモ商業帳簿又ハ其中ノ一ヲ開示スヘキ裁判所ノ命令ニ從ハサル者ハ之ヲ以テ證スヘキ争訟事件ニ付キ自己ノ不利ト爲ル推定ヲ受ク但其開示セサルハ自己ノ過失ニアラサルヲ證シ又ハ疏明シ得ル片ハ此限ニ在ラス

第四十條

商業帳簿ノ記入ノ證據力ハ判事(裁判)事情ヲ斟酌シテ之ヲ判決ス然レ凡其記入ノ情ヲ以テ決シテ記入者ノ利益ト爲ルヘキ充分ノ證ト爲ストヲ得ス但相手方ニ於テモ亦其記入ヲ援用シタル片又ハ相手方々商人ニテ自己ノ帳簿ニ於ケル反對ノ記入ヲ以テ之



ニ對抗シ能ハサル片又ハ相手方ニ於テ其不正ナルヲ少シニテモ信認セシメ得サル片ハ此限ニ在ラス

相手方其記入ヲ援用シタル場合ニ於テ之ト連絡セル記入アル片モ亦同シ

第四十一條 原告被告雙方ノ商業帳簿ノ記入相抵触シテ解明シ能ハサル片ニ於テモ亦判事ハ事情ヲ斟酌シテ其證據物ヲ全ク擲棄スルト否ト又ハ一方ノ帳簿ニ一層ノ信用ヲ置クト否ト又ハ一方ニ宣誓ヲ以テ帳簿記載ノ事項ヲ確保スルヲ許スト否トヲ判決ス

第四十二條 商業帳簿カ充分ノ證ト爲ラサル總テノ場合ニ於テハ宣誓ヲ以テ又ハ判事カ

事情ヲ斟酌シテ定ムヘキ他ノ證據物ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得

第五章 代務人及ヒ商業使用人

第四十三條 何人ニテモ商業ヲ營ム者ハ本店又ハ支店ニ明示ノ委任ヲ以テ一人又ハ數人ノ代務人ヲ置クヲ得但シ其委任ハ別ニ定式ヲ要セス

代務ノ委任及ヒ其解任ハ本ノ商業登記簿ニ登記ス

第四十四條 代務ハ何時ニテモ之ヲ廢罷シ又ハ代務人ヨリ之ヲ辭スルヲ得又其委任時

期ノ滿了ニ因リ又ハ代務人ト取結ヒタル雇傭契約ノ絶止ニ因リ又ハ其委任ヲ爲シタル



營業ノ賣却若クハ廢止ニ因テ自ラ消滅ス然  
 レ氏商業主人ノ死亡ニ因テハ消滅セス  
 代務人其委任ノ終リタル後ニ爲シタル取引  
 ハ代務人其終リタルヲ知ラサル片ニ限リ  
 有効トス  
 第四十五條 數人共同ニ委任ヲ受ケタル代務  
 ハ總員共同ニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス  
 此代務ハ其一人ニ付テ消滅シタル片ハ他ノ  
 各人ニ付テモ亦消滅ス  
 第四十六條 代務ノ委任ニハ商業主人ノ商號  
 ヲ用井且之ニ代リ裁判上ト裁判外トヲ問ハ  
 ス其商業ニ關スル總テノ商ヒ取引及ヒ權利  
 行爲ヲ爲シ得ル権力ノ授與ヲ包含ス

多ク主使

代務権ニ制限ヲ立ツルモ其制限ハ第三者ニ  
 對シテ法律上無効トス但第三者其制限アル  
 一ヲ知リタル片ハ此限ニ在ラス  
 第四十七條 代務ハ無期ニテモ又或ル時期ニ  
 達シ若クハ或ル事件ノ生スルヲ限リトシテ  
 モ之ヲ委任斗又一期ニテ之ヲ委任スル一  
 ヲ得但廢罷及ヒ辭任ノ權利ハ是力爲メニ妨  
 ケラレ、一無し  
 第四十八條 代務人ハ代務権ノ全部若クハ一  
 分ヲ他人ニ轉付スル一ヲ得ス但商業使用人  
 ヲ置クノ權アリ  
 第四十九條 商業主人ハ代務人カ其主人ノ營  
 業上ニ於テ爲シタル取引及ヒ行爲ニ因リ特



リ直接ニ権利ヲ得義務ヲ負フ但主人ノ之ヲ  
 承諾シタルト否ト又ハ主人ノ名ヲ以テ爲シ  
 タルト否ト問フ一無シ又主人ノ代務人カ  
 其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル不慮ノ行  
 爲又ハ代務人カ自己ノ名ヲ以テ取結ヒタル  
 取引ト雖モ其時ノ情況及ヒ相手方ノ意思ニ  
 因リ主人ノ計算ヲ以テ爲シタリトスヘキモ  
 ノニ付テハ亦同シ  
 第五十條 何人ニテモ代務委任ヲ偽稱シ又ハ  
 代務委任ヲ踰越シテ取引ヲ取結ヒタル者ハ  
 相手方ニ對シ其擇ニ隨ヒ取引約履行又ハ  
 損害賠償ノ責任ヲ自己ニ負フ其代務委任踰  
 越ノ場合ニ於テ第四十六條第二項ニ從ヒ商

業主人其義務ヲ負フハキ片ハ主人モ亦之カ  
 責ニ任セサル一ヲ得ス然レモ此場合ニ於テ  
 ハ主人ノミ又ハ代務人ノ對シテ其取引  
 効用ヲ致サシムル一ヲ得  
 相手方ニ於テ代務委任ノ欠缺ヲ知テ爲シタ  
 ル取引ハ雙方ニ在テ無効ナリ  
 第五十一條 代務人ハ自己ノ計算ニテモ又第  
 三者ノ計算ニテモ商ヒテ爲ス一ヲ得ス若シ  
 此成規ニ背キタル片ハ第六十四條ニ定メタ  
 ル結果ノ外商業主人ノ求ニ隨ヒ其商ヒ取引  
 ヲ主人ノ計算ニ移シ且損害アラハ之ヲ賠償  
 スル一ヲ要ス  
 第五十二條 何人ニテモ商業上商業主人ノ業



勞ヲ辨セシカ爲メニ商業使用人トシテ置カ  
レタル者ハ特別ノ委任ヲ受ケスト雖モ通常  
其擔當職分ノ範圍内ニ屬スヘキ總テノ取引  
及ヒ行爲ヲ主人ノ爲メニ充分ノ効力ヲ以テ  
爲ストヲ得使用人カ營業ノ全部若クハ一分  
ノ爲メニ置カレタルト否ト又ハ或種ノ取引  
若クハ一箇ノ取引ノ爲メニ置カレタルト否  
トヲ問ハス其取引及ヒ行爲ニ因リ主人獨リ  
權利ヲ得義務ヲ負フ  
使用人カ主人ノ爲メニ訴訟ヲ爲シ又ハ裁判  
所ニ出テ或ル行爲ヲ爲スハ特別ノ委任ヲ受  
ケタル片ニ限ル  
使用人署名スル片ハ主人ノ代理タル旨ヲ書

添フルヲ要ス  
第五十三條 商業使用人カ商業主人ノ爲メニ  
店舗、倉庫、帳場及ヒ其他ノ營業場ニ於テ或ル

業務ヲ辨スル片又ハ他所ニ送遣セラレ、片  
又ハ帳場ニ於テ第三者ト取引ヲ爲スニ際シ  
主人ヨリ制止セラレス若クハ第三者ノ問ヲ  
受ケテ已レ之ヲ爲スノ權アリト答ヘタル片  
ハ殊ニ其職分ノ範圍ニ付テ置レタルモノト  
看做サル

第五十四條 商業使用人ヲ商業主人ノ代人ト  
シテ之ト取引ヲ爲シタル第三者者依ラ意ナル  
ニ於テハ使用人其受ケタル委任又ハ指定セ  
ラレタル取引ノ仕法ニ依ラサルモ其取引ハ



第三者ニ對シテハ有効トス

第五十五條

商業主人カ商業使用人ヲシテ商

ヒ慣習ニ定マレル職分ノ範圍ヲ擴メテ其代

理ヲ爲サシメントスル片ハ此カ爲メ特別ノ

委任ヲ爲シ且相當ノ方法ヲ以テ之ヲ第三者

ニ告知スルヲ要ス殊ニ商業通信書又ハ爲

替證券及ヒ其他ノ債務證書ニ於ケル使用人

ノ署名カ主人ヲ羈束スヘキ片ハ右ノ規定ヲ

第五十六條

營業場ニ於テ第三者カ善意ヲ以

テ商業使用人ニ對シ金錢ノ受渡ヲ爲シタル

片ハ何レノ場合ヲ問ハス商業主人之ヲ承認

スルノ義務アリ商品證券及ヒ其他ノ有價物

ニ付テモ亦同シ

受取ノ證アル勘定書及ヒ其他ノ受取證書ヲ

持參スル者ハ拂金及ヒ其他書中記載ノ物ヲ

受取ルノ權アルモノト看做サル但情況ニ因

リ右ニ異ナレル推定ヲ爲スヘキ片ハ此限ニ

第五十七條

商業使用人ハ其職分上ノ權ヲ他

人ニ轉付スルヲ得ス又商業主人ノ承諾ヲ

得ルニアラサレハ他人ヲ代理トシテ其權ノ

全部若クハ一分ヲ行ハシムルヲ得ス但商

ヒ慣習ニ於テ之ヲ許スモノハ此限ニ在ラス

第五十八條

第四十六條第二項第四十九條第

五十條及ヒ第五十一條ノ規定ハ商業使用人



ニモ亦之ヲ適用ス

第五十九條

商業主人ト商業使用人トノ間ノ

權利關係ニシテ其僱傭ニ關スルモノハ此法

律ニ規定シタルモノヲ除クノ外僱傭契約ノ

原則ニ從ヒ之ヲ定ム

僱傭契約カ徒弟ヲ置クトニ關スル片ハ書面

第六十條

期ヲ定メス又ハ商業主人若クハ

商業使用人ノ終身ヲ期シテ取結ヒタル僱傭

契約ハ雙方何時ニテモ之ヲ解クノ豫告ヲ爲

ストヲ得但其豫告ハ一个月前ニ之ヲ爲ス

ト要ス

第六十一條

期限ヲ定メテ取結ヒタル僱傭契

約ハ雙方ノ承諾アルニアラサレハ其期間滿

了ノ前ニ之ヲ解クトヲ得ス但法律ニ依リ其

期限前ニ辭任又ハ解任ヲ爲シ得ハキ場合ハ

此限ニ在ラス

僱傭期限中ハ商業主人ニ於テ商業使用人ヲ

全ク使役セス又ハ僅カニ使役スト雖モ使用

人ハ契約上ノ給料又ハ各地習慣ノ給料ヲ受

第六十二條

商業使用人カ僱傭期限中疾病ニ

罹リ又ハ其他ノ事故ニ因リ二个月以上業務

ニ就クニ耐ハサル片ハ之ヲ解任スルトヲ得

但一ヶ年以上以上僱使セラレタル者ハ其業務ニ

就カサル二个月間ノ給料ヲ請求スルノ權利



アリ

第六十三條 商業使用人カ就業中疾病ニ罹リ

又ハ傷痍ヲ被ムルモ 商業主人ノ過失

ニ因ラサル片ハ主人ヨリ治療費ヲ給シ又ハ

償金ヲ與フルノ義務ナシ

第六十四條 商業使用人ヲ何時ニテモ解任シ

得ヘキ場合左ノ如シ

第一 不實ノ行爲ヲ爲シ又ハ已レニ受ケタ

ル信任ニ背キタル片

第二 自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ取

引ヲ爲セタル片但些少ノ取引ハ此限ニ在

ラス

第三 正當ノ理由ナクシテ其命セラレタル

仕事ヲ爲ス<sub>1</sub>ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リタル片

第四 不當ノ舉動又ハ不品行ノ爲メニ指斥

ヲ受ケタル片

第六十五條 商業主人カ商業使用人ニ相當ノ

給料ヲ與ヘス又ハ之ニ違法若クハ不善ノ

業務ヲ命シ又ハ其身體ノ安全健康若クハ名

譽ヲ害シ若クハ害セントスル取扱ヲ爲ス片

ハ使用人ハ何時ニテモ辭任スル<sub>1</sub>ヲ得

殊ニ徒弟ハ其受クヘキ營業上ノ教導ヲ受ケ

ス又ハ絶エス家事ニ使役セラレ、片ハ期限

前ニ解約スル<sub>1</sub>ヲ得

第六十六條 雇傭契約ハ商業主人ノ死亡ニ因

テ解クルモノニアラス然レモ商業使用人ノ



雇入レラレタル其營業ノ廢止ニ因テ解クル  
モノトス但其營業ヲ他人ニ移サントスル片  
ハ第六十條ニ從ヒ雙方豫告ノ權利ヲ有ス

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合  
商事會社總則

第六十七條 商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ム  
爲メニノ之ヲ設立スルヲ得

第六十八條 法ニ背キ又ハ禁止セラレタル事  
業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効トシテ  
又ハ風俗ヲ害スル會社ハ初ヨリ無効トシテ  
所<sup>ハ</sup>他<sup>ノ</sup>官<sup>廳</sup>命<sup>令</sup>ヲ依<sup>リ</sup>テ解散セシムルヲ得但<sup>シ</sup>其<sup>余</sup>  
第六十九條 法律命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受  
クヘキ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ

得ルニアラサレハ之ヲ設立スルヲ得ス  
株式會社ニ關シテハ第三節ノ規定ヲ遵守ス  
ルヲ要ス

第七十條 會社ハ適當ナル登記公告ヲ受クヘシ  
キ<sup>ハ</sup>格<sup>ラ</sup>サレハ第三者ニ對シ會社タルノ効ナ  
シ

第七十一條 會社ハ商號ヲ設ケ社印ヲ製レ營  
業所<sup>ヲ</sup>定ムルヲ要ス

第七十二條 社印ニハ商號ヲ刻シ商業登記簿  
ニ捺ヘテ保存スル爲メ其印鑑ヲ第<sup>之</sup>十八條ニ  
掲ケタル裁判所ニ差出スルヲ要ス社印ヲ變  
更シ又ハ改刻スル片モ亦此手續ヲ爲ス

第七十三條 商號及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル

社名考

社名考



文書又ハ報告書株券爲替證券及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ

第七十四條 會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フ殊ニ其名ヲ以テ

債權ヲ得債務ヲ負ヒ動産不動産ヲ得取シ又訴訟ニ付キ原告又ハ被告ト爲ルヲ得

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十五條 二人以上七人以下共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金錢又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資ト爲シテ共有資本ヲ組成シ責任其出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十六條 商號ハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏名<sup>ヲ用</sup>會社ナル文字ヲ附ス

會社若シ現存セル他人ノ營業ヲ引受クル片ハ其舊商號ヲ保續スルヲ得ス

第七十七條 會社ハ書面ニ契約ニ因テノ之ヲ設立スルヲ得其契約書ハ總社員之ニ連

署シ各自一通ヲ所持ス

右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及

支店ノ地ニ於テ其登記公告ヲ受クヘシ

第七十九條 登記公告スヘキ事項左ノ如シ

第一 合名會社ナルヲ



第二 會社ノ目的

第三 會社ノ商號及ヒ營業所

第四 各社員ノ氏名住所

第五 設立ノ年月日

第六 存立時期ヲ定メタル片ハ其時期

第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタル片ハ其

氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事

項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シ

タル片ハ七日内ニ其登記ノ書ヲ受クヘシ

第八十一條 會社ハ登記ノ書前ニ開業スル

ヲ得ス之ニ違フ片ハ地方裁判所ノ命令ヲ以

テ其營業ヲ差止ム但し其命令ニ對シ抗有ラズ

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六个月内ニ

開業セサル片ハ其登記ノ書ハ無効トス

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ

アラサレハ之ヲ變更スルヲ得ス其承諾ナ

キ片ハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施

行セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シ其

効用ヲ致サシムルヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ此法律及ヒ

會社契約ニ因テ定マル

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異



ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任  
ル總社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル  
事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ  
之ヲ決ス

第八十八條 會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ  
保衛スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ  
義務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アル片ハ  
此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應  
ジテ等差ヲ立ツルヲ得ス  
第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時ニテ  
モ業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類

ヲ調査シ且此事ニ關シ意見ヲ述フルヲ得  
第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務  
ノ委任又ハ廢罷ヲ爲スノ權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商  
人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勉勵注  
意ヲ爲スノ責務アリ其責務ニ背キ會社ニ損  
害ヲ生セシメタル片ハ之ヲ賠償スルヲ要  
ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金錢又ハ有價  
物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價ノ額ヲ附  
シテ會社ノ財産目錄ニ記入シ會社ノ所有ニ  
歸ス

第九十四條 社員カ特定物ノ用收權又ハ使用  
四十一



權ノミヲ出資ト爲シタル片ハ其用收權又ハ

使用權ノミ會社財産ニ移ル

第九十五條 前條ノ場合ニ於テ其物ノ損亡シ

タル片ハ其所有權ノ喪失ハ所有者ニ歸シ用

收權又ハ使用權ノ喪失ハ會社ニ歸ス

第九十六條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ル

能ハサル片ハ除名セラレタルモノト者

做~~ル~~但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入

ル片ハ此限ニ在ラス

第九十七條 社員其負擔シタル出資ヲ差入レ

サル片ハ會社ハ之ヲ除名スルト年百分ノ七

ノ利息ヲ拂ハシムルトヲ擇ミ尚ホ其孰レノ

場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルヲ得

第九十八條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増

シ又ハ損失ニ因テ減シタル出資ヲ補充スル

ノ義務ナシ

第九十九條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニア

ラサレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減

スルヲ得ス

第百條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサ

レハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ

已レノ地位ニ代ハラシムルトヲ得ス然レ氏

亡社員ノ相續人又ハ承繼人ハ契約ニ於テ反

對テ明示セサル片ハ其亡社員ノ地位ニ代ハ

ルヲ得但總社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレ

ハ業務ヲ擔當スルノ權利ナシ



第百一條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ移

付ハ會社及ヒ第三者ニ對シ其効ナシ

第百二條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムル

片ハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リ之

ヲ定ム

第百三條 社員カ會社ニ消費貸ヲ爲シ又ハ會

社ノ爲メニ立替金ヲ爲シタル片ハ年百分ノ

七ノ利息ヲ求ムルヲ得又社員カ業務施行

ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償

ヲ求ムルヲ得

第百四條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキ片

ハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬ヲ求

ムルヲ得然レモ勞力ヲ出資ト爲シタル

社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル勞力ニ

付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルヲ得

第百五條 社員カ會社ノ爲メニ受取リタル金

錢ヲ相當ノ時日内ニ會社ニ引渡サス又ハ會

社ノ金錢ヲ自己ノ用ニ供シタル片ハ會社ニ

對シ年百分ノ七ノ利息ヲ拂ヒ且如何ナル損

害ヲモ賠償スルノ義務アリ

第百六條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニアラ

サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニ

テモ會社ノ商業計算内ニ屬スル取引ヲ爲シ

又ハ之ニ參カルヲ得ス之ニ背キタル片ハ

會社ハ其擇ニ隨ヒ其社員ヲ除名シ又ハ其

取引ヲ會社ニ引受ケ尚ホ其孰レノ場合ニ於



テモ損害賠償ヲ求ムルヲ得

第百七條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割  
合ハ契約ニ於テ他ノ準率ヲ定メサル片ハ其

第百八條 出資ノ價額ニ準スル  
社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務

擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詭譎ヲ  
行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚  
シク缺キタル片ハ會社ハ之ヲ除名シ且損害  
賠償ノ求ムルヲ得

第百九條 社員カ會社契約ニ依リ又ハ此法律  
ノ規定ニ依リ會社ノ爲メニ爲シタル總テノ  
行爲及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スルノ  
義務アリ

第四款

第百十條 義務  
三者ニ對スル社員ノ權利

第百十條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明  
示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲  
メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リ直接ニ權利  
ヲ得義務ヲ負フ

第百十一條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル  
社員裁判上ト裁判外トヲ問ハス之ヲ主張シ  
又ハ有効ニ之ヲ處分スルヲ得

第百十二條 第百十三條 第百十四條  
三者ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シ其  
履行ヲ求ムルヲ得

第百十三條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權



第百十四條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財產之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財產ヲ以テ不

第百十五條 社員ニアラスシテ其氏名ヲ商號  
シ表スルカ  
住セ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ參  
カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル  
者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ  
第百十六條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料  
ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當  
ニ因テ受クルモノト雖モ前條ノ者ト同視セ

第百十七條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ

定ナキ片ハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務  
ニ付テモ責任ヲ負フ

第百十八條 會社財產ニ屬スル物ハ社員ノ債  
權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルヲ得ス但  
差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利  
ノ設定セラレタル片ハ此限ニ在ラス  
第百十九條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ  
得ヘキ利息又ハ配當金ノミヲ會社ニ對シテ  
要求スルヲ得

然レ氏社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解  
散ノ場合ニアラサレハ之ヲ要求スルヲ得

第百二十條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對ス



ル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トノ相殺ハ會社財産ノ派分前ニ在テハ之ヲ爲スルヲ許サズ

第百二十一條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財産ヨリ得ヘキ辨償ヲ減損セラレ又ハ支障セラレタル片ハ減少ノ時ヨリ一個年内ニ在テハ其減少ニ對シ異議ヲ述フルヲ得

第五款 社員ノ退社  
第百二十二條 社員ハ會社契約カ有期ナル片ハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナル片ハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルヲ得

其退社ハ六個月前ニ豫告ヲ爲シタル上事業年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社スヘキ重要ノ事由アル片ハ此限ニ在ラス

第百二十三條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因テ退社ス

第一 除名  
第二 死亡但亡社員ノ地位ニ代ハルヘキ相續人又ハ承繼人ナキ片ニ限ル

第三 破産  
第四 能力ノ喪失但特約ナキ片ニ限ル

第百二十四條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ノ旨ヲ受クヘシ  
第百二十五條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作リ



タル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼人ニ拂渡スルヲ要ス  
退社前ノ取引ニシテ未夕結了セサルモノハ其結了ノ後之ヲ計算スルヲ得  
第二百二十六條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニアラサレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハズ金錢ノシニテ之ヲ拂渡ス  
勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ其報酬又ハ償還ヲ求ムルヲ得ス

第二百二十七條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二個年間仍ホ全財産ヲ

以テ其責任ヲ負フ  
第六款 會社ノ解散  
以テ其責任ヲ負フ  
第六款 會社ノ解散

削除

第二百二十八條

第二百三十條

會社ハ左ノ諸件ニ因テ解散ス  
一 存立時期ノ滿了  
二 契約ニ定メタル解散事由ノ起發  
三 社員ノ承諾  
四 社員ノ破産  
五 裁判所ノ命令

第二百三十一條

第六十八條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルヲ能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルヲ能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ多數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツル中ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシム



其結了ノ後之ヲ計算スルヲ得  
 退社前ノ取引ニシテ未夕結了セサルモノハ  
 人ニ拂渡スルヲ要ス  
 テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼  
 タル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以  
 第百二十六條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約ア  
 ルニアラサレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハ  
 ス金錢ノシニテ之ヲ拂渡ス  
 勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出  
 資ニ付テハ其報酬又ハ償還ヲ求ムルヲ得  
 第百二十七條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ  
 義務ニ付テハ退社後二個年間仍ホ全財産ヲ

以テ其責任ヲ負フ  
 第六款 會社ノ解散

第百二十九條 會社ハ左ノ諸件ニ因テ解散ス  
 第一 會社存立時期ノ滿了  
 第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發  
 第三 總社員ノ承諾  
 第四 會社ノ破産  
 第五 裁判所ノ命令  
 第百三十一條 第六十八條ニ掲ケタル場合ノ  
 外會社其目的ヲ達スルヲ能ハス又ハ會社ノ  
 地位ヲ維持スルヲ能ハサルノ理由ヲ以テ一  
 人又ハ他數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツ  
 ル片ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシム



ル。1ヲ得。

會社ノ地位ヲ維持スルヲ能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名スヘキ1ヲ他<sup>他</sup>總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツル片<sup>他</sup>裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スル<sup>前二條掲ケル及所々を對シテハ此ルヲアツル</sup>

第百三十二條

第百二十九條ノ第一號第二號

ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保續スル1ヲ得但社員ノ一分ニテ保續シタル片ハ其離脱シタル社員ハ退社シタルモノト看做ス  
第百三十三條 會社解散スル片ハ破産ノ場合ヲ除クノ外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人1

人又ハ數人ヲ任シ七日内ニ解散ノ原由、日附及ヒ清算人ノ氏名住所ノ登記公告ヲ受クハ

第百三十四條

清算人<sup>今此和訳</sup>了<sup>了</sup>會社ノ

義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引ヲ爲ス1ヲ得又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲ス1ヲ得

第百三十五條

清算人ノ權ハ社員之ヲ制限ス

ル1ヲ得且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ廢罷スル1ヲ得<sup>但し其命令を對シテ是レ</sup>



第百三十六條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタ  
 ル後社員ニ計算ヲ報告シ第百七條及ヒ第百  
 二十六條ノ規定ニ從<sup>準</sup>テ會社財産ヲ社員ニ分  
 配ス<sup>又</sup>清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之  
 ヲ社員ニ分配スル<sup>得</sup>ヲ得  
 第百三十七條 社員ニ分配スヘキ物ハ會社ノ  
 總テノ義務ヲ清濟スルニ要セサル會社財産  
 = 限ル  
 第百三十八條 解散シタル會社ノ商業帳簿及  
 其<sup>他</sup>ノ書類<sup>付</sup>才ハ社員第三十五條ノ規  
 定ニ從<sup>テ</sup>之ヲ處分ス  
 第百三十九條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無  
 限責任ハ其義務ニ付キ五年未滿ノ時効ノ定

十キ片ニ限リ解散後五年ノ滿了ニ因テ時効  
 = 係ル但債權者カ未タ分配セラレサル會社  
 財産ニ對シ請求ヲ爲ス片ハ此限ニ在ラス  
 第百四十條 合資會社  
 上別段ノ定ナキ片ハ社員ノ責任カ金錢又ハ  
 有價物ヲ以テスル出資ノ<sup>レ</sup>ニ限ルモノヲ合  
 資會社ト爲ス  
 合資會社ノ社員ノ數ハ之ヲ制限セス  
 第百四十一條 合資會社ハ此節ニ定メタル規  
 定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從<sup>テ</sup>フ  
 第百四十二條 合資會社ノ登記<sup>公</sup>告<sup>ニ</sup>ハ第  
 七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタル



モノ・外尚ホ左ノ事項ヲ掲クルトヲ要ス

第一 合資會社ナルト

第二 會社資本ノ總額

第三 各社員ノ出資額

第四 無限責任社員アル片ハ其氏名

第五 業務擔當社員又ハ取締役ノ氏名及ヒ

其責任ノ有限又ハ無限ナルト

第百四十三條 商號ニハ社員ノ氏ヲ用フルト

ヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス

又商號ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナ

ル文字ヲ附ス

若シ商號ニ社員ノ氏ヲ用ヒタル片ハ其社員

ハ之カ爲メ當然會社ノ義務ニ對シ無限ノ責

任ヲ負フ

第百四十四條 業務擔當ノ任アル社員及ヒ取

締役ヲ除クノ外社員ハ自己ノ計算又ハ第三

者ノ計算ニテ會社ノ商業區域内ニ屬スル取

引ヲ爲シ又ハ之ニ參カルトヲ得

第百四十五條 各社員ハ契約上他ノ定ナキ片

ハ同等ニ會社ヲ代理スルノ權利義務ヲ有ス

第百四十六條 社員七人ヲ超ユル會社會社其會社

ハ直チニ會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又

ハ數人ノ取締役ヲ任シ又設立後七人ヲ超ユ

ル片ハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ任ス但其決議

ノ効カハ總社員四分三以上ノ多數決ニ因テ

生ス



數人ノ取締役ヲ任シタル片ハ各別ニ業務ヲ  
 取扱フヲ得ル也又ハ其總員若クハ數人共  
 同ニアラサレハ之ヲ取扱フヲ得サレバ  
 同時ニ定ム  
 取締役ハ何時ニテモ會社ノ決議ニ因テ解任  
 セラル、一有ルハシ其決議ノ効力ハ亦總社  
 員四分三以上ノ多數決ニ因テ生ス  
 第百四十七條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取  
 締役ハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス總テ會社  
 ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スルノ專權ヲ有ス  
 然レモ會社契約又ハ會社ノ決議ニ因テ羈束  
 セラル  
 第百四十八條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取

締役ノ代理權ハ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ  
 之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對シ其効力シ  
 第百四十九條 有限責任社員ハ業務擔當社員  
 又ハ取締役ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ移  
 付スルヲ得此場合ニ於テハ得取者ハ移付  
 者ノ權利義務ヲ襲承ス

第百五十條 會社契約ニ於テ又ハ第百四十六  
 條ニ定メタル會社ノ決議ニ因リ業務擔當ノ  
 任アル社員又ハ取締役ノ總員數人若クハ一  
 人ニテ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務  
 ニ付キ無限ノ責任ヲ負フヘキ旨ヲ豫メ定ム  
 ルヲ得

第百五十一條 前條ニ掲ケタル無限ノ責任ハ



業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ退任後  
一年ノ滿了ニ因テ消滅ス

第百五十二條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ毎年少ナク凡一回通常總會ヲ招集シ

其他業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ於テ必要ト認ムル片又ハ總社員四分一以上ノ

申立アル片ハ臨時總會ヲ招集ス  
第百五十三條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ

少ナク凡七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及ヒ提出スヘキ書類ヲ送付スルヲ要ス

第百五十四條 事業年度ノ終リタル後直ニ開クヘキ通常總會ヲ其年度ノ貸借對照

表及ヒ事業并ニ其成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ其調査及ヒ認定ノ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依リテスヘキ

第百五十五條 臨時總會ニ於テ議スヘキ事項ハ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

然レ凡合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要スヘキ事項ハ總社員四分三以上ノ多數ヲ以テ

之ヲ決ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直ニ退社スルノ權利アリ

第百五十六條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ社員出席セサル片ハ其總會ニ於テ假

ニ決議ヲ為スヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ招集ス其通



知ハ若シ第二ノ總會ニ於テ出席社員ノ多  
數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可レタル片  
ハ之ヲ有効ト爲スヘキ旨ヲ明告スルヲ要  
ス

第百五十七條 利息又ハ配當金ハ會社資本額  
カ損失ニ因テ減レタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡  
スルヲ得ス

第三節 株式會社

第一款 總則

第百五十八條 會社ノ資本ヲ株式ニ分テ其義  
務ニ對シテハ會社財產ノシ獨リ其責任ヲ負  
フモノヲ株式會社ト爲ス  
第百五十九條 株式會社ハ其目的カ商  
業ヲ爲ス

↓ 在ラサルモノモ亦之ヲ商事會社ト看做  
ス

第百六十條 株式會社ハ七人以上ヲ以テ且  
政府ノ免許ヲ得ルニアラサレハ之ヲ設立ス  
ルヲ得ス

第二款 會社ノ發起及ヒ設立  
第百六十一條 株式會社ハ四人以上ニアラサ  
レハ之ヲ發起スルヲ得ス

發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作り各自之  
ニ署名捺印ス

定款ハ此法律ノ規定ニ牴觸スルヲ得ス  
第百六十二條 目論見書ニ記載スヘキ事項左  
ノ如シ



- 第一 株式會社ナルヲ
- 第二 株式會社ノ目的及ヒ因由
- 第三 株式會社ノ商號及ヒ營業所
- 第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額
- 第五 資本使用ノ概算
- 第六 發起人ノ氏名住所及ヒ發起人各自ノ引受クル株數
- 第七 存立時期ヲ定メタルハ其時期
- 第八 地方長官ノ經由シテ目論見書及ヒ假定款ヲ主務省ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フノ要ス

- 第百六十四條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タル片ハ目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルヲ得其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ日附ト各株式申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨トヲ附記ス
- 第百六十五條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受クル株數ヲ株式申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス
- 第百六十六條 株式ノ申込ニ因リ申込人ハ會社設立スルニ至レハ定款ニ從ヒ各株式ニ付



テノ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ

第百六十七條 總株式ノ申込アリタル後ハ發

起人ハ創業總會ヲ開キ少ナクモ總申込人ノ

半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人

ノ承認ヲ經テ定款ヲ確定ス

第百六十八條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ

發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ議

定シ又也<sup>レ</sup>有價物ノ出資ヲ差入レテ株式ヲ受

クヘキ者アル片ハ其價額ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少ナクモ總申込人ノ半數ニ

テ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ其

議決權ノ過半數ニ因テ之ヲ爲ス  
第百六十九條 其他創業總會ニ於テハ取締役

及ニ監査役ヲ選定ス

第百七十條 創業總會ノ終リタル後發起人ハ

地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ免

許ヲ請フ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添フ

第一 目論見書及ヒ定款

第二 株式申込簿、~~謄本~~

第三 發起ノ認可證

第百七十一條 會社設立ノ免許ヲ得タル片ハ

發起人其事務ヲ取締役ニ引渡ス

取締役ハ速カニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少

ナクモ四分一ノ金額ヲ會社ニ拂込マシム

第百七十二條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂

込ノ後十四日以内に<sup>目論見書</sup>目論見、定款、株式申込簿及



七十一  
設立免許書并ニ其各謄本ヲ添ヘテ登記公

書ヲ受クヘシ

登記公告スヘキ事項ハ左ノ如シ

第一 株式會社ナルヲ

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ商號及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第六 取締役ノ氏名住所

第七 存立時期ヲ定メタル片ハ其期限

第八 設立免許ノ日附

第九 開業ノ日附

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿

ニ添ヘテ保存ス

第一百七十三條 會社支店ヲ設ケタル片ハ其所

在地ニ於テ亦登記公告ヲ受クヘシ

第一百七十四條 設立ノ免許ヲ得タル後遷ク氏

一個年内ニ登記公告ヲ受ケサル片ハ其免許

ハ効力ヲ失フ第八十一條及ヒ第八十二條ノ

規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第一百七十五條 登記公告前ニ在テハ創業總會

ノ承認ヲ經タル義務及ヒ出費ニ對シ發起人、

取締役及ヒ株主ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負

フ

第一百七十六條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務



及ヒ出費ニ對シテハ發起人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第三百七十七條 商號ニハ株主ノ氏ヲ用フルヲ得ス又商號ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス

第三百七十八條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ左ノ事

項ヲ記載ス

第一 各株主ノ氏名住所  
第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番

第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額  
第四 各株式ノ得取及ヒ移付ノ日附

第四款 株式

第三百七十九條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等ニ分ケタルモノニシテ二十圓ヲ下ル

第三百八十條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作リ之ニ其金額發行ノ日附番號商號社印取締役

第三百八十一條 株式ハ分割又ハ併合スルヲ得

第三百八十二條 株金ノ一分ノミヲ拂込ミタル間ハ會社ハ假株券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株券ヲ發行スルヲ得



第百八十三條 假株券及ヒ本株券ハ登記公

前ニ之ヲ發行スルヲ得ス

第百八十四條 株金額少ナクハ四分一ノ拂込

前ニ爲シタル株式ノ移付ハ無効トス

第百八十五條 株式ノ移付ハ得取者ノ氏名ヲ

株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニアラサレハ

第百八十六條 株金額拂込前ノ株式ノ移付

者ハ會社ニ對シ其株金額未納額ノ擔保義務ヲ

負フ

第百八十七條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉

鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎ニ一个月

ヲ踰エサル期間株券ノ移付ヲ停止スルヲ得

得

第百八十八條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財

産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻

サント求ムルヲ得ス

第五款 取締役及ヒ監査役

第百八十九條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ

少ナカラサル取締役ヲ三箇年内ノ時期ヲ以

テ選定ス但其時期滿了ノ後再選セラレハ

妨ナシ

取締役ハ同役中ヨリ

第百九十條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限

ニ付テハ第百四十七條及ヒ第百四十八條ノ

主トシテ業務ヲ取扱フ事務員  
取戻クテ得然レ



規定ヲ適用ス

第百九十一條 取締役ニ選マル、爲メ株主ノ所有スヘキ株數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム  
 取締役ノ在任中ハ其株券ニ通易ヲ禁スル印  
 ヲ捺シ之ヲ會社ニ預リ置ク  
 第百九十二條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡  
 スル及ヒ定款並ニ會社ノ決議ヲ遵守スル  
 ニ付キ會社ニ對シ自己ニ其責任ヲ負フ  
 第百九十三條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各  
 株主ニ異ナラサル責任ヲ負フ然レモ定款又  
 ハ總會社ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シ  
 タル義務ニ付キ取締役カ連帶無限ノ責任ヲ  
 負フヘキ旨ヲ豫メ定ムルヲ得其責任ハ退

任後一个年ノ滿了ニ因テ消滅ス

第百九十四條 取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記

簿ニ受クヘシ

第百九十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ

少ナカラサル監查役ヲ二個年ノ時期ヲ以テ

選定ス但其時期滿了ノ後再選セラル、ハ妨

ナシ

第百九十六條 監查役ノ職分ハ左ノ如シ

第一 取締役ノ業務施行ガ法律命令定款及

ヒ總會ノ決議ニ適合スルヤヲ監視シ且總

テ其業務施行上ノ過愆及ヒ不整ヲ檢出ス

ル

第二 計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告



書利息又ハ配當金ノ分配案ヲ調査シ此事

ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲ス

第三 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムル  
片ハ總會ヲ招集スル

第百九十七條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ業

務ノ實況ヲ尋問シ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書

類ヲ展閱シ會社ノ金運及ヒ其全財産ノ現況

ヲ檢査スルノ權利ヲ有ス

第百九十八條 監査役中ニ於テ意見ノ分レタ

ル片ハ其意見ヲ總會ニ提出ス

第百九十九條 監査役ハ第百九十六條ニ掲ケ

タル責務ヲ缺キタルニ因リ會社又ハ其債權

者ニ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第百條 取締役又ハ監査役カ給料又ハ其他

ノ報酬ヲ受クヘキ片ハ定款又ハ總會ハ決議

ヲ以テ之ヲ定ム

第百一條 取締役又ハ監査役ハ何時ニテモ

總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルヲ得其解

任セラレタル者ハ會社ニ對シ解任後ノ給料

若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルヲ

得ス

第六款 株主總會

第百二條 總會ハ取締役監査役又ハ其他此

法律ニ依リ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第百三條 總會ノ招集ハ會日ヨリ少ナク凡

十四日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ且



定款ニ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ爲ス  
 此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ通用ス  
 第二百四條 通常總會ハ每年少ナク凡一回定  
 款ニ定メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於  
 テハ前事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照  
 表、事業報告書及ヒ利息又ハ配當金ノ分配案  
 ノ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス  
 取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報  
 告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス  
 第二百五條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル  
 爲メ何時ニテモ之ヲ招集スルヲ得又總株  
 主ノ少ナク凡五分一ニ當ル株主ヨリ會議ノ  
 目的ヲ示シテ申立ツル片ハ亦臨時總會ヲ招

集セサルヲ得ス

第二百六條 總會ハ此法律ニ於テ別段ノ規定  
 アル片ノ外定款ノ定ニ從ヒテノ決議ヲ爲  
 ストシテ得定款ニ其定ナク片ハ總株主ノ少ナ  
 ク凡四分一ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過  
 半數ニ因テ決議ヲ爲ス  
 第二百七條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付  
 テノ決議ヲ爲スニハ第二百六十八條ニ定メタ  
 ル決議ノ方法ニ依ル  
 第二百五十六條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ  
 適用ス  
 第二百八條 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タ  
 ルヲ通例トス然レ凡十一株以上ヲ有スル株



主ノ議決權ハ定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルヲ得

第七款 定款ノ變更

第二百九條 會社ハ定款ニ定アル片又ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更スルヲ得然レモ法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ違背スルヲ得ス

第二百十條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又ハ新株券若クハ債券ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株數ヲ減シテ之ヲ爲スルヲ得但資本ハ其全額ノ四分之一未滿ニ減スルヲ得ス此債券ハ記名式ニシテ其金額ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ適

用ス

第二百十一條 會社資本ヲ減セントスル片ハ會社ハ其減少ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且異議アル者ハ三十日內ニ申出ツヘキ旨ヲ催告スルヲ要ス

第二百十二條 前條ニ掲ケタル期間內ニ異議ノ申出アラサル片ハ異議ナキモノト看做ス異議ノ申出アリタル片ハ會社ハ其債務ヲ辨償シ又ハ之ニ擔保ヲ供レテ異議ヲ取除キタル後ニアラサレハ資本ヲ減スルヲ得ス  
第二百十三條 資本ノ減少レタル部分ノ拂戻ヲ受ケタル株主ハ過愆ナキ不知ノ爲メ其減少ニ付テ異議ヲ申出テサル債權者ニ對シ



記ノ日ヨリ二個年間其受ケタル拂戻ノ額ニ  
 至ルマテ自己ニ責任ヲ負フ（改定登記簿受ケタル事項）  
 第二百十四條 會社ノ定款（中）變更シタル片ハ  
 直チニ其變更ノ登記公告ヲ受クヘシ登記前  
 ニ在テハ其變更ノ効ヲ生セズ  
 營業所ヲ移轉スル片ハ舊所在地ニ於テ移轉  
 ノ登記公告ヲ受ケ新所在地ニ於テハ新  
 設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記公告  
 ヲ受クヘシ又同一ノ地域内ニ於テ移轉スル  
 片ハ移轉ノ登記公告ヲ受クヘシ  
 第二百十五條 會社定款ノ變更ノ登記公告ヲ  
 受ケタル片ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ  
 其變更ヲ届出ツルヲ要ス

第八款 株金拂込

第二百十六條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定  
 款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂  
 込ノ日ヨリ少ナク凡十四日前ニ各株主ニ通  
 知スルヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲サ、ル  
 爲メ株主ノ被ムルヘキ損失ヲ併示ス  
 第二百十七條 拂込期節ヲ怠リタル株主ハ年  
 百分ノ七ノ遅延利息及ヒ其遅延ノ爲メニ生  
 シタル費用ヲ支拂フノ義務アリ  
 第二百十八條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少  
 ナク凡十四日ノ期間ニ於テ拂込ムヘキノ催  
 告ヲ會社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ爲サ、ル片ハ  
 會社ハ其株主ニ對シ株券ノ所有權ヲ失ヒ夕







リ減シタル資本ヲ補填シ及ヒ規定ノ準備金  
 ヲ扣取シタル後ニアラサレハ之ヲ分配スル  
 1ヲ得ス  
 準備金カ資本ノ四分一ニ達スルマテハ毎年  
 ノ利益ノ少ナクモ二十分一ヲ準備金トシテ  
 積置ク1ヲ要ス  
 第二百二十四條 前二條ノ成規ニ依ラズシテ  
 拂出シタル利息又ハ配當金ハ其後取戻サシ  
 ト求ムル1ヲ得  
 第二百二十五條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各  
 株ニ付キ拂込タル金額ニ應シ總株主ノ間  
 ニ平等ニ之ヲ爲ス  
 第二百二十六條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ

株主名簿、目論見書、定款、設立免許書、總會ノ決  
 議書、毎年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事  
 業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案及ヒ抵當  
 若クハ不動産質ノ債權者ノ名簿ヲ備へ置キ  
 通常ノ執務時間中何人ニモ其求ニ應シ展閱  
 ヲ許スノ義務アリ  
 第二百二十七條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度  
 毎ニ一回一ヶ月ヲ超エサル期間前條ニ定  
 メタル展閱ヲ停止スル1ヲ得  
 第十款 會社ノ検査  
 第二百二十八條 總株金ノ少ナクモ五分一ニ  
 當ル株主ノ申立ニ因リ會社營業所ノ地方裁  
 判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ業務ノ



實況及ヒ財産ノ現況ノ検査ヲ命スルヲ得  
第二百二十九條 検査官吏ハ會社ノ金匣、財産  
●現在高帳簿及ヒ總テノ書類ヲ調査シ取締  
役及ヒ其他ノ役員ハリ説明ヲ求ムルノ權利  
アリ

第二百三十條 検査官吏ハ検査ノ顛末及ヒ其  
面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之  
ヲ授命ノ裁判所ニ差出スヲ要ス  
調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ交付シ  
又株主及ヒ其他ノ者ヨリ之ヲ會社ニ交付シ  
又株主及ヒ其他ノ者ヨリ之ヲ會社ニ交付シ

第二百三十一條 主務省ハ何時ニテモ其職權  
ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第

二百二十八條ニ掲ケタル検査ヲ爲サシムル  
一ヲ得  
第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對ス  
ル訴訟

第二百三十二條 總會ハ監査役又ハ特ニ選定  
シタル代人ヲ以テ取締役ニ對シ又代人ヲ以  
テ監査役ニ對シ訴訟ヲ爲スヲ得

第二百三十三條 會社資本ノ少ナク凡二十分  
一ニ當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ  
取締役又ハ監査役ニ對シ訴訟ヲ爲スハ  
被告ト爲ルヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用  
ヒ又ハ參加人ト爲リ裁判所ニ於テ其權利ヲ  
保衛スルノ權ヲ妨ケス



第十二款 會社ノ解散  
第二百三十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因テ解散

第一 定款ニ定メタル場合

第二 株主ノ任意ノ解散

第三 株主ノ七人未滿ニ減シタル

第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタル

第五 會社ノ破産

第六 裁判所ノ命令

削除

第二百三十五條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スルノ外其業務ヲ止ム取締

役之ニ拘ハラスレテ營業ヲ續行スル片ハ之カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十七條 會社解散ノ場合ニ於テハ取

締役ハ總會ヲ招集シ裁判所ノ命令ニ因リ場

會ヲ除クノ外解散ノ決議ヲ取ル

其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除クノ外一人

又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

第二百三十八條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議

又ハ清算人ノ選定ヲ爲サ、ル片ハ地方裁判

所ハ債權者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職

權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算

人ヲ任スルヲ得



外決議後七日以内ニ解散ノ原由、日附及ヒ清算人ノ氏名住所ノ登記發告ヲ受ケ之ヲ地方裁判所ニ届出テ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルヲ要ス

第二百四十條 地方裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實況ヲ監視スルノ權アリ

第二百四十一條 登記公告ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移ル然レモ取締役ハ清算人ノ求ニ應ジ清算事務ヲ補助スルノ義務アリ

第二百四十二條 登記公告後ニ爲シタル株式ノ移付及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産

地ノ處分ハ總テ無効トス但特別ノ理由アリテ裁判所ノ許可ヲ得タル片ハ此限ニ在ラス

第二百四十三條 取締役カ總會ノ招集又ハ登記ノ輻出ヲ爲サ、リシ片ハ之カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百四十四條 解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會社財産中リ最モ先ニ之ヲ支拂ノ

第十三款 會社ノ清算

第二百四十五條 清算人ノ職分ニ付テハ第三百十四條及ヒ第三百十五條ノ適用ス

第二百四十六條 清算人ノ職分ノ踐行ニ付テハ總會ヨリ又ハ株主若クハ債權者ノ申立ニ



因<sup>地方</sup>元裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲ與スルヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スルノ責任ヲ負フ

第二百四十七條 會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ爲シタル申立ニ因リ總會又ハ時宜ニ隨ヒ裁判所ハ債權者ノ利益護視ノ爲メ一人又ハ數人ノ代人ヲシテ清算ヲ監査スルヲ得

第二百四十八條 清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日以内ニ會社帳簿ニ依テ其財産ノ現況ヲ取調ヘ少ナク氏三四ノ公告ヲ以テ債權者ニハ其債務ノ辨濟期限ニ至リタル時直チニ之ヲ辨濟スヘク又債權者ニハ或ル期間内ニ其債

權ヲ申出ツベキ旨ヲ催告スルヲ要ス但其期間ハ六十日ヲ下ルヲ得ス

其公告ニハ債權者期間内ニ申出ヲ爲サ、ル片ハ其債權ヲ清算ヨリ除斥セラル、旨ヲ附記ス然レ氏清算人ハ期間内ニ申出テサル債權者ト雖モ其知レタル者ヲ清算ヨリ除斥スルヲ得ス

第二百四十九條 清算人ハ其期間滿了前ニ於テハ債權者ニ支拂ヲ爲シ始ムルヲ得ス

第二百五十條 期間後ニ申出テタル債權者ハ會社ノ債務ヲ清濟シタル後未タ株主ニ分配セサル會社財産ノ之ニ對シ其辨償ノ請求ヲ爲スルヲ得



第二百五十一條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲ  
シテ其未夕金額ヲ拂込マサル株券ニ付キ拂  
込ヲ爲サレムルノ權利アリ

第二百五十二條 清算人ハ必要又ハ有益ト認  
ムル片ハ何時ニテモ總會ヲ召集スルヲ得

又清算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メ

タル片又ハ總株金ノ少ナクモ五分一ニ當ル

株主ヨリ申立ツル片ハ總會ヲ召集スルノ義

務アリ

第二百五十三條 清算人ハ委任事務ヲ履行シ

タル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認

可

第二百五十四條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認

可定

受ケタル片ハ總會ノ債務ヲ清濟シ

タル殘餘ノ財産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應

ジ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス以テ分配ハ總債權

者ニ辨償シタル時ヨリ三個月ノ滿了ノ後ニ

アラサレハ之ヲ爲スヲ得ス

株主ハ總會ニ於テ金錢ニアラサル物ヲ以テ

分配スヘキノ決議ヲ爲シタル片ト雖モ之ヲ

受取ルノ義務ナシ

第二百五十五條 清算ノ終リタル後清算人ハ

總計算書及ヒ一般ノ處務報告書ヲ總會ニ差

出シテ卸任ヲ求ム

第二百五十六條 清算人ハ其行爲ニ付キ總會

ノ責任ヲ負フ然レモ其行爲ニ因

先及  
ハナ



リ或ル株主ノ一已ノ權利ヲ害シタルハ其  
 株主ハ清算人ニ對シ裁判上ニテ其權利ノ承  
 認及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得  
 第二百五十七條 清算人ハ卸任ヲ勅シタル後  
 商業登記簿ニ清算終了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ  
 公告ス其公告ニハ清算中<sup>ハ付キ</sup>生シタル會社ニ  
 對スル請求アレハ之ヲ三個月ノ期間内ニ主  
 張スヘキ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタル片  
 ハ清算人ニ於テ之ヲ辨了ス  
 第二百五十八條 清算中ニ現在ノ會社財産ヲ  
 以テ會社ノ總債權者<sup>定債</sup>ニ全ク辨償シ能ハサル  
 下ノ分明ナルニ至リタル片ハ清算人ハ破産  
 手續ノ開始ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ

第二項  
未定

取引先ニ通知ス<sup>債權者又ハ</sup>  
 此場合ニ於テ既ニ株主ニ支拂ヒタルモノ  
 ノ中ハ之ヲ取戻ス下ヲ得清算人カ貸方借方  
 ノ此ノ如キ關係ナル下ヲ知リテ爲シタル支  
 拂ニニテ其受取人ヨリ取戻シ得サルモノニ  
 付テハ會社ノ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ  
 第二百五十九條 總會ノ決議ニ因リ會社ノ帳  
 簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル  
 者ノ氏名住所ハ清算人ヨリ之ヲ地方裁判所  
 ニ届出ツ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ  
 責任ヲ負フ  
 第二百六十條 清算ノ結果即チ左ノ事項ハ清  
 算人ヨリ地方裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス



- 第一 支拂又ハ示談ニ因リ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルヲ
  - 第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタル  
一及ヒ其分配ノ金額
  - 第三 清算費用ヲ辨濟シ及ヒ清算中ノ生シタル請求ヲ辨了シタルヲ
  - 第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リ卸任ヲ得タルヲ
  - 第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルヲ
  - 第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其効力ヲ失ヒタルヲ
- 其清算ノ結果ハ亦清算人ヨリ地方長官ヲ經

由シテ主務省ニ届出ツルヲ要ス

第四節 罰則

- 第二百六十一條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セララル
- 第一 此法律ニ定メタル登記ヲ受クルヲ怠リタル片
- 第二 登記公告前ニ開業シタル片
- 第二百六十二條 株式會社ノ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セララル
- 第一 株主名簿ヲ製シ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタル片



第二 會社解散ノ場合ニ於テ總會ノ招集又

ハ株主ノ通知ヲ急リタル片

第二百六十三條 株式會社ノ取締役ハ左ノ場

合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ

處セラレ

第一 第二百二十條ノ規定ニ反シ株金ノ全

部又ハ一分ヲ拂戻シタル片

第二 第二百二十一條ノ規定ニ反シ會社ノ

爲メ其株券ヲ得取シ又ハ質ニ取り又ハ再

七 移付セザル片

第三 第二百二十二條 又ハ 第二百二十三條

ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ株主ニ拂

渡セタル片

第四 第二百二十九條ノ場合ニ於テ會社

帳簿及ヒ簿類ノ開示若クハ其求メラレ

ル説明ヲ拒ミ又ハ金運及ヒ財産現在高ハ

検査ヲ妨ケタル片

合資會社ノ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締

役カ第百五十七條ノ規定ニ反シ利息又ハ配

當金ヲ社員ニ拂渡シタル片ハ亦本條ニ定メ

タル罰則ヲ之ニ適用ス

第二百六十四條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場

合ニ於テハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セ

ラル

第一 第二百四十八條ニ定メタル公告ヲ爲

スヲ急リタル片



第二 會社ノ財産ヲ以テ其總債權者ヲ全ク  
辨償シ能ハサル場合ニ於テ破産手續ノ開  
始ヲ爲スルヲ急リ

第二百六十五條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場  
合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ  
處セラル

第一 第二百四十九條ノ規定ニ反シ債權者  
ニ支拂ヲ爲シ始メタルキ

第二 第二百五十四條ノ規定ニ反シ株主ニ  
分配ヲ爲シタルキ

第二百六十六條 前數條ニ掲ケタル過料ハ地  
方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス其過料ノ辨  
納ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員取締役又

二  
次

ハ清算人連帶シテ其責任ヲ負フ  
第二百六十七條 業務擔當ノ任アル社員取締  
役監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五  
十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ情重  
キ片ハ罰金ニ併セ一年以下ノ重禁錮ニ處  
セラレ

第一 官廳又ハ總會ニ對シ書面若クハ口頭  
ヲ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ實  
況ニ付テ故意ニ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ不  
正ノ意ヲ以テ其現況若クハ實況ヲ隱蔽シ  
タルキ

第二 登記公告ノ届出又ハ公告中ニ詐偽ノ  
陳述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルキ

百七



前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使  
用人カ之ト共ニ其犯則ヲ爲シタルハ亦右  
ノ罰ニ處セラレ

第ニ百六十八條 發起人カ株式申込ニ付キ詐  
偽ノ記載ヲ爲シタルハ二十圓以上二百圓  
以下ノ罰金ニ處セラレ

第ニ百六十九條 前二條ニ掲ケタル罰ニ處ス  
ルニハ刑事裁判上ノ手續ヲ以テス

第五節 共算商業組合  
第ニ百七十條 共算商業組合ノ契約ハ會社ニ  
關スル此法律ノ規定ニ從フヲ要セス其契

約ニ因リ商事會社及ヒ會社財産ハ成立セス  
第ニ百七十一條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ

一時ノ商ヒ取引又ハ作業ヲ爲スヲ當座組合  
トシ契約實行ノ爲メ其一ニノ組合員若クハ  
總組合員ニ於テ又ハ共同代理人ヲ以テ爲シ  
タル行爲ニ付キ第三者ニ對シ各組合員直接

ニ連帶ノ權利義務ヲ有ス  
第ニ百七十二條 二人以上各自別個ニ一時ノ

商ヒ取引若クハ作業ヲ爲シ又ハ商業ヲ營ム  
ト雖モ此ニ因テ生スル損益ヲ共分スルヲ

契約シタルモノヲ共分組合トシ各組合員亦  
前條ニ掲ケタルト同シキ連帶ノ權利義務ヲ

有ス然レ氏他ノ組合員ノ爲レタル行爲ヨリ  
生スル請求ニ對シテハ先訴ノ抗辯ヲ爲スノ

權利アリ



第二百七十三條 或人カ損益共分ノ契約ヲ以テ他人ノ營ム商業ニ出資ヲ供シテ之ヲ其者ノ所有ニ移シ商號ニ氏名ヲ顯ハサス又業務施行ニ參カラサルモノヲ匿名組合トシ出資未濟ノ場合ニ於テ其出資ノ額ニ滿ワルマテヲ限リ第三者ニ對シ義務ヲ負フ

代務人又ハ商業使用人ト爲リテ用務ヲ辨スルハ業務施行ニ參カルモノト看做サス

第二百七十四條 匿名組合ノ損益共分ノ割合ハ明約アルニアラサレハ營業資本總額ニ對スル出資額ノ比例ヲ以テ之ヲ量定ス

第二百七十五條 利益ハ損失ニ因テ減シタル出資ヲ補填シタル後ニアラサレハ之ヲ分配

スルトヲ得ス然レモ匿名員ハ受取期限ニ至リテ未タ受取ラサル利益又ハ既ニ受取リタル利益ヲ以テ其後ニ生シタル損失ヲ補充スルノ義務ナシ

第二百七十六條 匿名組合ノ契約ハ其契約ニ於テ時期ヲ定メサリシハ六個月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルトヲ得又其契約ハ營業者ノ破産若クハ死亡又ハ其營業ノ絶止ヲ以テ終ル

第二百七十七條 契約解除ノ場合ニ於テハ匿名員ノ負擔ニ歸スヘキ損失及ヒ債務ヲ引去リタル後其出資額ヲ之ニ拂戻スルヲ要ス

第二百七十八條 匿名員ハ契約解除ノ場合及



百十三  
七 每事業年度ノ終ニ於テ計算書ノ差出ヲ求  
メ及ヒ營業帳簿并ニ書類ヲ展開調査セント  
求ムルノ權利アリ  
此規定ハ第二百七十一條及ヒ第二百七十二  
條ニ掲ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス



商法再調查案

自第二百七十四條  
至第七百一十一條

第十七章  
第十九章  
第二十章

商事契約  
代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人  
運送人  
賣買  
信用  
保險



第一章  
第二章  
第三章  
第四章  
第五章  
第六章  
第七章

第一節  
第二節  
第三節  
第四節  
第五節  
第六節  
第七節

第八節  
第九節  
第十節  
第十一節  
第十二節  
第十三節  
第十四節

第十五節  
第十六節  
第十七節  
第十八節  
第十九節  
第二十節  
第二十一節

第二十二節  
第二十三節  
第二十四節  
第二十五節  
第二十六節  
第二十七節  
第二十八節

第七章 商事契約

第一節 契約ノ種類

第二百七十四條 商事契約ハ明示又ハ默示ニ

テ之ヲ取結フヲ得

第二百七十五條 商事契約ノ旨趣

者ノ現實及ヒ的確ナル共通ノ意思ニ依リテ

定マルモノトス其意思ハ商慣習ト商人タル

者ノ當然ノ思考トニ從ヒテ解釋ス可シ

第二百七十六條 明示ノ契約ハ書面、口頭又ハ

態様ニテ之ヲ取結フヲ得

第二百七十七條 主タル目的物カ五十圓ノ價

額ヲ超ユル契約ハ其履行ヲ即時ニ爲サ、ル

片ハ之ヲ書面ニ作成シテ交付ス可シ



本法中或ル契約ニ関スル特別ノ規定ハ前  
項ノ爲メニ妨ケラレ、<sup>一</sup>無シ

第二百七十八條 書面作成ノ要件ハ合式ノ契  
約證書ヲ以テモ義務者又ハ其代人ノ署名若  
クハ之ニ代ハル可キ氏名アル書簡電報勘定  
書切符其他ノ各書類ヲ以テモ之ヲ充タス<sup>一</sup>  
ヲ得

第二百七十九條 第二百七十七條ニ掲ケタル  
契約ノ包有事項ニ付テノ證據又ハ反對證據  
ハ書面ヲ以テスルモノニ限り之ヲ許ス但第  
二百七十五條ニ從ヒテ爲ス契約條款ノ解釋  
ニ関スルモノ又ハ錯誤強暴若クハ詭譎ノ證  
明ニ関スルモノ又ハ羈束スルノ意思ナクシテ

契約書ニ掲ケタル事實ニ関スルモノハ此限  
ニ在ラス

第二百八十條 第二百七十七條ニ掲ケタル契  
約ハ書面ニ作成セスト雖モ後ニ至リ當事者  
ニ於テ殊ニ雙務契約ノ場合ニ在テハ其雙方  
ニ於テ實際之ヲ履行シ又ハ書面ヲ以テ之ヲ  
承認シタル片ハ法律上其効力アリ

第二百八十一條 黙示ノ契約ハ契約提供ニ對  
シテ黙示ノ承諾アル場合ニ存シ又事ヲ爲シ又  
ハ爲サ、ルニ因リテ法律上若クハ高慣習上  
義務又ハ請求權ノ生スル總テノ場合ニ存ス  
第二百八十二條 契約提供ニ對スル黙示ノ承  
諾ハ一般ニ商慣習若クハ誠實信用ニ因リ殊  
ニ



二 被提供者ノ特別ナル業體又ハ雙方間ノ平  
 常ノ取引關係ニ因リテ承諾シタルモノト通  
 例推定ス可キ場合ヲ除クノ外ハ決シテ存ス  
 ルモノト看做スルヲ得ス  
 第二百八十三條 雙務ノ契約ニ在テハ相手方  
 ノ行為ニ對スル承諾ハ其承諾シタル一方ニ  
 於テモ履行ス可キ默示ノ承諾ナリトス  
 第二百八十四條 契約上ノ義務ハ明示ト默示  
 トヲ問ハス合法ノ原因アルニ非サレハ成立  
 スルヲ得ス  
 第二百八十五條 契約上ノ義務ヲ将来ノ事件  
 ノ不的確定<sup>定</sup>ニ發生又ハ不發生ニ繫ラシムル  
 場合ニ於テハ契約ハ其事件ノ發生セザルニ成

又ハ發生シタルキハ當然消滅ス  
 第二百八十六條 契約ニ加ヘタル未必條件又  
 ハ期限ハ此カ爲メ利益ヲ受ク可キ者ノ明示  
 ノ拋棄ニ因ルニ非サレハ無効ト爲スルヲ得  
 ス

第二百八十七條 商事契約ニ依リ二人以上共  
 同シテ債権ヲ取得シ又ハ債務ヲ負擔スル場  
 合ニ於テハ反對ヲ明示シタルニ非サレハ其  
 債権ハ各債権者ヨリ又其債務ハ各債務者ニ  
 對シテ連帶且無條件ニテ其効用ヲ致シムル  
 得  
 第二百八十八條 前條ノ規定ハ保證義務ノ場  
 合ニ於テモ之ヲ適用ス殊ニ一人ノ保證人ニ  
 五



對スルニ人以上ノ債権者ニ関レテモ一人ノ  
債務者ノ爲メニスルニ人以上ノ保證人ニ関  
レテモ二人以上ノ債務者中ノ一人ノ爲メニ  
スル保證人ニ関レテモ之ヲ適用ス  
第二百八十九條 商事ニ於テ他人ニ對シ責ニ  
任スル注意ハ別段ノ規定又ハ契約アルニ非  
サレハ辯識アリ且勸勵ナル商人カ履行地ノ  
慣例ニ從ヒテ爲ス可キ注意ナリトス  
第二百九十條 不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢  
ニ出テタル行爲ニ付テノ責任ハ豫メ契約ヲ  
以テ之ヲ免カルハ得ス  
第二百九十一條 意外ノ事ニ因ル危險及ヒ至  
重ナル注意ハ本法ニ規定ナキモ明示ノ契約

ヲ以テ之ヲ引受クルヲ得

第二節 契約ノ取結

第二百九十二條 契約ハ一方ノ提供ヲ他ノ一

方ニ於テ異議ナク承諾シタル片直チニ之ヲ

取結ヒタルモノトス但黙示ノ承諾ノ存セサ

ル片ハ適當ノ方式ヲ以テ提供者ニ承諾ヲ述

ブルヲ要ス

第二百九十三條 契約ノ提供ハ即時ニ又ハ被

提供者ニ許與シタル期間ニ承諾ヲ述ハサル

片ハ之ヲ拒絶シタルモノト看做ス

第二百九十四條 提供ノ黙示ノ承諾ヲ推定ス

ルヲ得ル場合ニ於テハ被提供者カ即時又

ハ許與セラレタル期間ニ拒絶ヲ述ハサル片

七



第 二 百 九 十 五 條  
ハ其提供ヲ承諾シタルモノト者做ス  
ハ提供者ニ對スル承諾ノ陳述ハ遅ク氏提供  
ヲ受取りタル翌日正午マテニ普通ノ送達方  
法ヲ以テ提供者ニ其陳述ヲ發シタル片ハ即  
時ニ之ヲ爲シタリト者做ス但其翌日カ一  
般ノ休日ナル片ハ更ニ其翌日ニ於テスル  
得  
第 二 百 九 十 六 條  
契約提供ニ對シテ條件ヲ付  
シ又ハ變更ヲ加ヘテ爲ス承諾ニ在テハ提供  
者ハ其選擇ヲ以テ之ヲ純粹ノ拒絶ト者做シ  
又ハ被提供者ヨリ更ニ爲シタル提供ト者做  
ス  
得

第 二 百 九 十 七 條  
提供者ハ被提供者カ通常ノ  
情況ニ於テ即時又ハ期間ニ承諾ヲ述フル  
得ル時ニ至ルマテハ被提供者ニ對シテ其  
提供ニ羈束セラレ、モノトス然レ氏提供ノ  
被提供者ニ達スル以前又ハ達スルト同時ニ  
反對ノ通知ヲ以テ其提供ヲ取消ス  
得  
第 二 百 九 十 八 條  
契約提供ノ承諾ヲ述ヘタル  
片ハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其承  
諾ヲ取消ス  
得  
然レ氏地ヲ隔テタル者  
ノ間ニ於テハ取消カ承諾陳述ノ達スル以前  
又ハ達スルト同時ニ提供者ニ達スル片ハ其  
取消ヲ有効トス  
第 二 百 九 十 九 條  
契約取結ニ関スル通信ヲ爲



スニ當リ送達人ノ過誤及ヒ遅延ニ付キ送達  
人ニ其責任ナキ片ハ送達ノ爲メ利益ヲ受リ  
ル者其責ニ任ス

第三百條 見本代價附其他契約提供ヲ媒介ス

ル物ニシテ契約提供ト共ニ送付シ若リハ別

ニ送付スルモノハ其提供ノ拒絶セラレ場合

ト雖モ被提供者ノ方ニ留マレテ通例トス其

他ノ商品ニ在テハ被提供者ハ提供者カ更ニ

處分ヲ爲スニ至ルマテ相當ノ方法ヲ以テ之

ヲ貯藏ス可シ然レ氏第百七十五條ノ規定

ニ從ヒ相當ノ期間ニ其商品ヲ賣却シテ立替

第三百一條 商事契約ハ強暴詭譎又ハ錯誤ア

金及ヒ口銭ノ辨濟ニ充ツルヲ得

ル場合ニ於テハ之ニ對シテ異議ヲ述ズルヲ

得然レ氏大ナル欠損ニ因リ殊ニ代價其他ノ

報償ノ不相當ナルニ因リテ異議ヲ述フルト

ヲ得ス

第三節 契約ノ履行

第三百二條 契約ノ履行ハ一方カ他ノ一方ノ

同意ヲ得テ明示又ハ黙示ニテ負ヒタル義務

ヲ完全ニ辨濟スルニ在リ

第三百三條 債務者ノ義務ノ旨趣及ヒ範圍殊

ニ債務ノ目的物ノ性質及ヒ品位ニ付テハ履

行地ニ行ハル定例ニ依リテ之ヲ定ム但別

第三百四條 十分ナル債務辨濟ヲ適當ノ方法



ヲ以テ債権者ニ言込ムモ債権者其承諾ヲ拒  
絶スル片ハ債務者ハ其辨済ス可キモノヲ債  
権者ノ計算又ヒ危険ニ於テ處分スルヲ得  
此場合ニ於テハ債務者ハ不適法ノ意思又ハ  
甚シキ怠慢ニ付テノ債権者ニ對シテ責任  
ヲ負フ

第三百五條 債権者ハ一分ノ履行又ハ遅延シ  
タル履行ヲ承諾スルトヲ要セス但割拂ノ契  
約又ハ慣習アル片ハ此限ニ在ラス  
第三百六條 契約ノ履行ハ契約上ノ満期日又  
ハ其他定マリタル満期日之ヲ爲サ、ル片  
ハ遅延シタリトス  
第三百七條 満期日ハ日ヲ指シテ之ヲ定メ又

ハ期間ヲ設ケテ之ヲ定ムルヲ得

第三百八條 期間ヲ定ムルニ日数ヲ以テシタ  
ル片ハ其期間ノ末日ヲ満期日ト者做レ週數  
月數又ハ年數ヲ以テシタル片ハ最後ノ週月  
又ハ年ニ於テ結約ノ日ニ應當スル日ヲ満期  
日ト者做ス

第三百九條 日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ  
付テハ結約ノ日ハ之ヲ算入セス

第三百十條 半个月ハ十五個日ノ期間ト者做  
ス

第三百十一條 満期日カ一般ノ休日ニ當ル片  
ハ其翌日ヲ満期日ト者做ス

第三百十二條 特別ノ情况アル片ノ外ハ履行  
十三



地ニ於ケル慣習上ノ取引時間ヲ以テ履行ニ  
付テノ一日ノ時間ト者做ス

~~第三百十三條~~

第三百十三條 或ル期間ノ經過中ニ履行ヲ爲  
スノ契約ナル片ハ其履行ハ期間内何レノ取  
引日ニテモ之ヲ爲レ又ハ之ヲ求ムルヲ得

第三百十四條 前條ノ場合ニ於テ疑シキ片ハ  
期間ノ定ニ因リテ利益ヲ受ク可キ一方カ履  
行日ヲ擇ムヲ得通例此ノ如キ一方ト者做  
ス可キ者ハ商品ノ受取人又金錢ニ係ル債権  
ニ在テハ債務者トス

第三百十五條 期間ヲ延ハタル場合ニ於テ別  
ニ定ムル所アルニ非カレハ其新期間ハ舊期  
間ノ滿了ヨリ起算ス

第三百十六條 契約其他ニ履行期日ノ定ナク  
シテ債務者其履行ヲ相當ノ期間ニ爲サ、ル  
井ハ債権者ハ満期日ヲ定ムルヲ得

第三百十七條 別段ノ履行地ヲ定メス又ハ取  
引ノ性質若クハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ  
推知スルヲ得サル片ハ履行ハ債権者若ク  
ハ受取ノ権利アル者ノ指定シタル地若シ指  
定セサル片ハ其住地殊ニ營業場ニ於テ之ヲ  
爲ス可シ

第三百十八條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務  
ハ債権者ノ指定シタル運送場若シ指定セサ  
ル片ハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ  
履行シタルモノトス

第三百十九條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務  
ハ債権者ノ指定シタル運送場若シ指定セサ  
ル片ハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ  
履行シタルモノトス

第三百十八條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務  
ハ債権者ノ指定シタル運送場若シ指定セサ  
ル片ハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ  
履行シタルモノトス



第三百十九條 當事者雙方カ同地ニ住スル場

合ニ於テ別段ノ契約ナキハ債務者カ債務

ノ目的物ヲ送付ス可キヤ又ハ債權者カ之ヲ

取寄ス可キヤハ其地ノ慣習又ハ取引ノ性質

ニ依リテ之ヲ定ム

第三百二十條 別段ノ契約ナキ片ハ債務ノ目

的物ノ送付ハ債權者ノ危険ニ於テ之ヲ為ス

ヲ通例トス但債務者カ自己又ハ其使用人ノ

過失ニ付テ負フ責任ハ此カ為メニ妨ケラル

、ヲ無シ

第三百二十一條 度量衡距離期間休日支拂貨

幣ノ本位并ニ種類其他履行ノ細目ハ履行地

ニ行ハル、定例ニ從ヒテ之ヲ定ム但別段ノ

假  
ル

第三百二十二條 金銭ノ支拂ハ前條ニ掲ケタ

ル定例ノ範圍内ニ在テハ正貨ヲ以テモ強制

通用ノ紙幣又ハ全價額ヲ以テ通用スル紙幣

又ハ之ト同一ノ條件アル銀行紙幣ヲ以テモ

之ヲ辨濟スルヲ得

第三百二十三條 擇一債務其他目的物ノ特定

セサル債務ニ付キ履行ノ目的物ヲ定ムル

ハ其目的物ノ尚ホ存スル場合ニ限り疑シキ

片ハ債務者ノ擇ムニ任ス

第四節 價額賠償損害賠償及ヒ割引

第三百二十四條 債務者カ其債務ノ履行ヲ正

當期日ニ為サ、ル片ハ債權者ハ契約ヲ解除

第三章修正



本又ハト債務者ニ對シ場合ニ從ヒテ價額賠償  
若クハ損害賠償ヲ求ムルトヲ擇ムトシ得

第三百二十五條 價額賠償ハ金錢ニ係ル債務  
ニ付テハ債務額ノ外満期日ヨリ其債務ヲ辨  
濟スル日マテノ遅延利息ヲ支拂フニ在リ總  
テ其他ノ債務ニ付テハ債務ノ目的物カ満期  
日ノ後ニ有セシ最高ノ價額ト其價額ヲ定メ  
タル時ヨリ辨濟ノ日マテノ遅延利息ト支  
拂フニ在リ但債権者ニ於テ債務ノ目的物カ  
満期日ニ有セシ價額ト此日ヨリノ遅延利息  
ノ賠償トヲ得ント欲スル片ハ此限ニ在ラス  
第三百二十六條 債権者ハ債務者ノ過失ヲ證  
明シ又ハ債務者ノ不履行ニ因リ自己ニ加ヘラ

證明  
反用  
一七二  
七

レタル損害ヲ證明スル無クシテ價額賠償ヲ  
求ムルヲ得但義務ノ性質及ヒ範圍ニ因リ  
テ債務者カ不履行ニ付キ責任ヲ負フ片ニ限  
ル

第三百二十七條 第三百二十五條ノ規定ニ從  
ヒテ査定ス可キ債務ノ目的物ノ價額ハ其普  
通ノ市場價額又取引所ニ於テ賣買スル物ニ  
在テハ其取引所相場ニ加フルニ遲延ニ因リ  
テ生シタル費用及ヒ立替金ヲ以テシタルモ  
ノトス  
第三百二十八條 第三百四條ニ掲ケタル承諾  
ヲ遅延シタル債権者ハ亦遅延ニ因リテ生シ  
タル費用及ヒ立替金ヲ債務者ニ賠償ス可シ



第三百二十九條 故意又ハ急慢ノ行爲ニ因リ

テ不適法ニ損害ヲ他人ニ加ヘタル者ハ其損  
害ニ付キ十分ノ賠償ヲ爲スノ義務アリ

第三百三十條 損害賠償ハ生シタル損失及ヒ

失ヒタル利益ノ辨償ヲ包括ス

第三百三十一條 利益トハ一方ノ加害ノ行爲

ナカリシキハ他ノ一方カ爲シ得ヘカリシ

ヲ證明シ得ヘキ取得ヲ謂フ此取得ハ豫見

得ヘキモノナリシト否ト又ハ通常ノモノナ

リシト否トヲ問フ無シ

第三百三十二條 損害賠償ヲ査定スルニハ偶

然推測若クハ將來ノ利益又ハ他ノ情况ノ加  
ハルニ因リテ生スル者ハ可キ利益ハ之ヲ問

フトヲ得ス

第三百三十三條 契約ヲ以テ豫メ價額賠償又

ハ損害賠償ノ額ヲ定メタルハ之ニ從フヨ

通例トシ實際ノ情况ヲ援用シテ其豫定ノ額

ヲ増減セント主張スルコトヲ得ス

第三百三十四條 費用立替金、前貸金其他此類

ノ支出金ノ賠償及ヒ損害ノ賠償ヲ爲ス可キ

者ハ權利者ノ求ニ依リ其各金額ノ割合ニ應

ジ辨償ス可ト日ヨリノ利息ヲ支拂フ可シ

第三百三十五條 遅延利息其他ノ利息ニシテ

法律又ハ契約ニ於テ場合ヲ定メサレモノハ

年百分ノ七トス

第三百三十六條 金錢ニ係ル債務ヲ満期前ニ

二十



支拂フ片ハ債務者ハ契約又ハ商慣習アル片  
ニ限リ其満期前ノ時間ニ應シテ割列ヲ求ム  
ルヲ得

第三百三十七條

契約不履行ニ因リテ債権者  
ヨリ契約ヲ解除スル片ハ債務者ハ既ニ爲シ  
タル一分ノ辨濟ヲ現状ニテ取戻シ其受取り  
タル報償ヲ全額又ハ全價額ヲ以テ債権者ニ  
償還ス可シ

第五節 違約金

第三百三十八條

債権者ハ契約ノ履行ヲ確ム  
ル為メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ  
或ル金額ヲ支拂フノ義務ヲ債務者ニ負ハシ  
ムルヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償

ノ要件ニ關係ナキモトス

第三百三十九條

履行又ハ賠償ヲ求ムル債権  
者ノ權利ハ違約金ノ爲メニ廢止セラレヌ  
雖モ疑シキ片ハ違約金ト共ニ損害賠償ヲ求  
ムルヲ得ス

第三百四十條

過失アル不履行ニ因リテ債権  
者ニ加ハタル損害カ違約金ノ額ヲ超ユル片  
ハ違約金ノ外此超過額ニ付キ損害賠償ヲ求  
ムルヲ得

第三百四十一條

違約金ノ額ハ當事者雙方ノ  
定ムル所ニ任ス

第三百四十二條

違約金ノ契約ニシテ差額取  
引又ハ不法ナル博奕若クハ賭事ノ取引ヲ隱  
サシ



蔽セントスルノ目的ヲ以テスルモノハ無効トス

廿四

第六節 代理

第三百四十三條

商取引<sup>取結</sup>ノ爲メニ委任ハ

總テノ場合ニ於テ其取引取結ノ爲メニスル

代理ト者做ス但委任者カ代理人ノ行爲ニ承

諾ヲ與フルヲ要スル旨ヲ明示シタル片ハ

此限ニ在ラス

代理人ハ委任ヲ行フノ際至重ノ注意ヲ爲ス

第三百四十四條

委任者ノ名ヲ以テシタルト

否トヲ問ハス委任者ノ爲メニ代理人ノ取結

ヒタル商取引ニ因リ委任者ハ直接ニ第ニ者

ニ對シテ權利ヲ得義務ヲ負フ

第三百四十五條

委任又ハ事後ノ承諾ヲ受ク

ルヲ無リシテ第ニ者ノ爲メニ或人ト取引ヲ

取結ノ者ハ其人ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十六條

取引取結ノ際其委任ノ權限

ヲ踰越スル者ハ第ニ者カ其踰越ヲ知ラス又

ハ知ルヲ能ハサリシ片ハ委任者ニ對シテ責

第三百四十七條

代理人カ他人ノ為メ商取引

ヲ取結ヒタル場合ニ於テ相手方カ自己ノ過

失ニ非スシテ代理ナルヲ知ラス又ハ委任

者ヲ知ラサリシ片ハ其相手方ハ委任者ノ不

履行ニ因リテ被ムリタル損害ニ付キ其代理

廿五



人ニ對シテ賠償ヲ求ムルノ權利アリ

第三百四十八條 代理ハ委任者又ハ代理人ノ

死亡、因リテ解除スルモノニ非ス

第三百四十九條 代理ハ委任者ノ承諾アリ又

ハ其承諾ヲ得、キモノト推定ス可キ情况ア

ルニ非サレハ之ヲ第三者ニ轉付スルヲ得

ス

第三百五十條 他人ノ爲メニ其委任又ハ事後

ノ承諾ヲ受ケテ商取引ヲ取結フ者ハ明約ナ

キ片ト雖モ計算書ヲ示シテ其取引取結ニ付

キ正當ニ爲シタル前貸金立替金共ニ費用ヲ

賠償セシメ及ヒ慣習上ノ利息、手数料又ハ口

錢ヲ求ムルノ權利アリ

第七節 時効

第三百五十一條 商事ニ於ケル債権ハ満期日

ヨリ若シ此期日ノ定メナキ片ハ其債権ノ生

シタル日ヨリ六ヶ年ノ滿了ニ因リテ時効ニ

罹ル但法律上別段ノ時効期間ヲ規定シタル

片ハ此限ニ在ラス

第三百五十二條 時効ハ履行ノ爲メ債務者ニ

明示シテ爲シタル催告又ハ債権ノ取立若ク

ハ擔保ノ爲メ債務者ニ對シテ爲シタル債権

者ノ裁判上若クハ裁判外ノ行為又ハ書面上

ノ支拂約束又ハ主タル物若クハ從タル物ニ

關シ債務者ノ爲シタル一分ノ支拂ニ因リテ

中断ス



第三百五十三條 受取證ヲ記シ又ハ記セザル  
計算書ノ送付ノミニテハ之ヲ催告ト者做ス

第三百五十四條 満了セタル時効ノ効力ハ主  
タル物及ヒ從タル物ニ付テハ債權全ク消滅

シ債權者ヨリ直接ニモ間接ニモ獲得タ之ヲ主  
張スルコトヲ得サルニ在リ

第八節 交互計算

第三百五十五條 相互ノ間ニ絶テス債權及ヒ

債務カ生スル所ノ平常ノ取引關係ヲ有スル

者ハ期間ヲ定メテ互ニ差引計算ヲ爲シ其債  
權及ヒ債務ヲ消却スルコトヲ得

第三百五十六條 交互計算ノ關係ハ明示又ハ

黙示ノ契約ニ因リテ生ス然レモ長キ時間共

信用ヲ繼續シタルモ此カ爲メ交互計算ノ關

係ヲ生スルコト無し

第三百五十七條 差引計算ノ期間ハ一个年ト

ス但契約ヲ以テ此ヨリ短キ期間ヲ定メタル

第三百五十八條 各當事者ハ毎期間ノ終ニ計

算ヲ閉鎖シ且約定又ハ相當ノ期間ニ其計算

書ヲ承認又ハ異議申述ノ爲メ互ニ送付スル

ノ義務アリ

第三百五十九條 異議ヲ起サス又ハ異議ヲ起  
シタルモ留保ヲ爲サスシテ交互計算ノ關係  
ヲ繼續スルハ計算ヲ默認シタルモノト者



第三百六十一條 交互計算ノ關係ヲ解キ又ハ計算ニ對シテ異議  
 ノ述ルハ非サレハ各箇ニ之ヲ主張スル  
 第三百六十二條 計算カ承認セラレタルハ  
 其計算ニ依ルニ非サレハ差引殘額ヲ請ハス  
 第三百六十三條 別段ノ契約又ハ慣習アラサ  
 ルトヲ得ス  
 第三百六十四條 毎期間ノ終ニ生スル差引殘  
 額ハ之ヲ新ナル債務計目トシテ次ノ計算ニ  
 務ス  
 第三百六十五條 契約アル片ハ此限ニ在  
 ラス

トカカニ

第三百六十四條 一方ニ於テノニ債權ヲ生シ  
 他ノ一方ハ其債權ノ計算ノ為ニ時時支拂  
 ヲ為シテ絶トス取引スル者ノ間ニ交互計算  
 ノ關係ヲ生スル片ハ其計算ニ屬スル債權ハ  
 期間ニ從ヒ且交互計算ノ全部ニ依ルニ非サ  
 レハ之ヲ主張スルトヲ得ス  
 第三百六十五條 交互計算ニ繰込ミタル債權  
 ハ契約上ノ定ナキキト雖モ其繰込ノ日ヨリ  
 之ニ相當ノ利息ヲ付ス可シ  
 第三百六十六條 各計算期間ニ生スル差引殘



額ニ付テハ期間ノ末日ヲ満期日ト者<sup>三十二</sup>做ス  
第三百六十七條 交互計算ノ關係ハ其計算ニ

對シテ其効ヲ有セス  
第三百六十八條 交互計算ノ關係ハ當事者ノ

一方カ何時ニテモ之ヲ辞スルノ外死亡又ハ

破産ニ因リテ解除ス  
第九節 質權

第三百六十九條 商取引ヨリ生スル債權ノ擔

保ノ為メニスル動産質權ノ設定ハ總テノ場

合ニ於テ書面契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ其契

約ハ擔保セラル可キ債權ノ日附數量並ニ其

合法ノ原因及ヒ質權設定ノ日附並ニ目的物

ヲ逐一記載セザルハ無効トス

第三百七十條 質權設定ニ因リ債權者ハ質物

ヲ賣却シテ其債權ノ辨償ニ充ツルノ權利ヲ

取得ス但質物ノ占有カ自己又ハ其代人ニ移

リタル片ニ限ル

第三百七十一條 船荷證書倉荷證書其他裏書

ヲ以テ所載商品ノ處分權ヲ移轉スルヲ得

ル證券ノ裏書讓渡ハ物ノ占有ノ移轉ト同一  
ナリトス  
第三百七十二條 指圖證券カ質權設定ノ目的物  
ナル片ハ其證券ニ質入ノ旨ヲ附記シテ  
債權者ニ裏書讓渡ス可シ  
第三百七十三條 債務者カ其債務ノ辨濟ヲ遲



延シタルキハ債権者ハ債務者ニ對シ訴ヲ起  
ス無クシテ質契約書ヲ差出シ裁判所ノ命令  
ヲ得タル後質物ノ賣却ニ着手スルヲ得  
此命令ハ債権者ヨリ選延ナク債務者ニ之ヲ  
通知ス可シ

第三百七十四條 債務者カ契約書ヲ以テ賣却  
ノ承諾ヲ明示シタル片又ハ指圖證券ヲ質  
入シタル片ハ債権者ハ裁判所ノ命令ナクシ  
テ賣却ヲ爲スヲ得

第三百七十五條 前二條ノ場合ニ於ケル賣却  
ハ仲立人又ハ競賣人カ競賣ヲ以テ之ヲ爲シ  
又取引所ニ於テ賣買スル商品ニ在テハ取引  
所ニ於テ公ノ呼上ヲ以テ之ヲ爲シ且賣却期

日ノ少ナク氏八日前ニ其爲サントスル賣却  
ヲ債務者ニ通知ス可シ

第三百七十六條 前條ニ掲ケケル期間ノ満了  
スルマテハ債権者ハ債権者ニ辨濟ヲ爲シテ  
質物ノ還付ヲ求ムルノ権利アリ

第三百七十七條 債務額ニ利息及ヒ必要ノ費  
用并ニ立替金ヲ加ヘタル額ヲ起スル賣却代  
價ノ過剩ハ賣却ノ諸費用ヲ引去リタル後之  
ヲ債務者ニ還付ス可シ

第三百七十八條 債権者ハ質權ノ設定ニ因リ  
テ質物ヲ他ニ讓渡スノ權利ヲ失フヲ無シ然  
レ氏質債務ノ全額ニ満ツルマテ其代價ヲ質  
債権者ニ交拂フ可シ之ニ違フ片ハ刑法第  
三十五



二百以下ノを知らし  
第九十五條ノ刑ニ處ス

第三百七十九條

買主ニシテ其買入レタル物ニ付キ第三者ニ質權ノ存スルヲ知ル者ハ質債務ノ全額ニ滿ツルマテ其代價ヲ直接ニ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フハ亦前條ノ刑ニ處ス

第三百八十條

同一ノ物ニ付キ質權ヲ二人以上ニ設定シタル片ハ其物ノ占有者カ賣却ノ優先權ヲ有ス但強暴若クハ隱密ニテ又隨時返還ノ條件ヲ以テ其占有ヲ得タル片ハ此限ニ在ラス

第三百八十一條

二人以上ノ質債權者中一人ハ現物ヲ占有シ他ノ者ハ其物ニ付テノ處分證

券ヲ占有スル片ハ孰シモ其占有ヲ先トニ得タル者カ賣却ノ優先權ヲ有ス

第三百八十二條

動産ニ付テノ有効ナル質權ハ質債權者ノ善意ナル片ニ限り所有者ニ於テ又ハ物ヲ處分スル爲メ所有者ヨリ委託セラレタル代人ニ於テ又ハ正當ナル取得ノ因リ物ノ占有ヲ得タル各人ニ於テ之ヲ設定スルヲ得但其物カ盗品又ハ紛失品ナル片ハ此限ニ在ラス

第三百八十三條

所有者ニ非サル者ノ質入シタル物ハ賣却執行ノ終ニ至ルマテハ所有者ヨリ質債權者ニ十分ナル辨償ヲ爲シテ其取戻ヲ求ムルヲ得



第三百八十四條 有効ニ質入シタル物ヲ賣却

シ其代價ヲ支拂ハシタル片ハ從來其物ニ付キ

存セシ所有權又ハ質權ハ總テ消滅ス

第三百八十五條 質權ハ第三者ニ於テモ債務

者ノ爲メ之ヲ設定スルコトヲ得

第三百八十六條 質權ハ將來ノ債權ノ爲メ豫

メ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第三百八十七條 質物賣却ノ裁判上ノ停止ハ

債權者ニ辯濟ヲ爲シタルトノ抗辯ヲ以テ之

ヲ爲サレムルコトヲ得但其抗辯ヲ直チニ信認

セシメ得ル片ニ限ル

第三百八十八條 指圖證券又ハ無記名證券ニ

因リテ生シタル債權ヲ質入スルニハ債務者

ニ通知ヲ爲スコトヲ要セス

質債權者ハ質ニ取リタル債權ヲ賣却ニ代ハ

テ直接ニ取立ツルコトヲ得又金錢ニ係ル債權

ニ非サレ片ハ目的物ヲ質物トシテ取扱フコト

ヲ得

第十節 留置權

第三百八十九條 商取引ニ因リテ他人ノ物ヲ

占有シ其物ニ付キ勞力、費用、前貸金、立替金、手

數料又ハ利息ニ関シテ満期ト爲リタル債權

ヲ有スル者ハ其債權ノ完全ナル辯濟又ハ擔

保ヲ得ルマテハ其物又ハ其物又ハ其賣得金

ヲ留置スルノ權利アリ

第三百九十條 交互計算ヨリ生スル差引殘額



ニ付テノ債權ノ爲メ又ハ債務者支拂<sup>四十</sup>ヲ停止  
 シタル片ハ未ダ満期ト爲ラサルモ商取引ヨ  
 リ生スル總テノ債權ノ爲メ債權者ハ正當ニ  
 占有ヲ得タル債務者ノ總テノ物ニ對シテ留  
 置權ヲ行フコトヲ得  
 第三百九十一條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因  
 テ消滅ス但權利者カ自己ノ利益ノ爲メ其物  
 ヲ處分シタルモ其留置權アルコトヲ新所持人  
 ニ告知セシ片ハ此限ニ在ラス  
 第三百九十二條 留置權ハ債權カ時効其他ノ  
 事由ニ因リテ消滅シタルカ爲メ消滅スト  
 雖モ物ノ所有權カ債務者ノ意ヲ以テ又ハ意  
 ナクシテ他人ニ移リタルカ爲メハ消滅セ

第三百九十三條 留置權ハ債權者ヨリ之ヲ他  
 人ニ移スコトヲ得ス  
 第三百九十四條 留置權ノ行使ヲ債務者ニ通  
 知シタルモ仍ホ相當ノ期間ニ辨濟又ハ擔保  
 ヲ得サル者ハ留置レタル物ヲ第三百七十三  
 條及ヒ第三百七十五條ノ規定ニ從ヒテ賣却  
 シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得  
 第三百九十五條 雙務ノ契約ニ依リテ其履行  
 ヲ求ムルコトヲ得ル者ハ他ノ一方カ履行ヲ為  
 スマテハ自己ノ義務ノ目的物ヲ留置スルコ  
 トヲ得但反對ノ契約又ハ商慣習アル片ハ此限ニ  
 在ラス



第十一節 指圖證券及ヒ無記名<sup>四十二</sup>證券

第三百九十六條 或ル金額又ハ商品ノ引渡

係ル書面契約ヨリ生スル債権ハ契約書カ其

明文又ハ商慣習ニ從ヒテ指圖式ナル片ハ裏

書ヲ以テ之ヲ第三者ニ讓渡ス<sup>一</sup>ヲ得

第三百九十七條 指圖證券ノ發行人又ハ裏書

讓渡人ハ其證券ニ指圖式ニ非<sup>ハ</sup>ル旨ヲ明記

シテ裏書讓渡ス<sup>一</sup>ヲ得<sup>ハ</sup>ルモノト爲<sup>ス</sup>ト

第三百九十八條 指圖證券及ヒ其裏書ニハ日

附<sup>ヲ</sup>爲<sup>シ</sup>發行人又ハ裏書讓渡人之ニ署名捺

印ス可<sup>シ</sup>

第三百九十九條 發行又ハ裏書讓渡ノ緣由<sup>リ</sup>

ル契約ノ合法ノ原因ハ之ヲ證券ニ掲<sup>ケ</sup>ル<sup>ト</sup>

ヲ要セス但<sup>シ</sup>第<sup>三</sup>百<sup>七</sup>十<sup>二</sup>條ノ規定ヲ妨<sup>ケ</sup>ス

第四百條 指圖證券ハ白地ニテ之ヲ發行シ又

ハ裏書讓渡ヲ爲<sup>ス</sup>ト<sup>一</sup>ヲ得

第四百一條 指圖證券ノ發行人ハ受取證ヲ記

シタル指圖證券ノ呈示及ヒ交付ヲ受<sup>ケ</sup>タル

片ハ豫メ引受ヲ爲<sup>サ</sup>スト雖<sup>モ</sup>其證券ニ記載

シタル金額又ハ商品ヲ裏書讓渡人ニ引渡ス

ノ義務アリ但<sup>シ</sup>第<sup>三</sup>百<sup>八</sup>十<sup>九</sup>條ニ依<sup>リ</sup>テ留置

權ノ原因タル反對債權ヲ有<sup>ス</sup>ル場合ニ於<sup>テ</sup>

ハ其辨濟ヲ受<sup>ケ</sup>タル片<sup>ハ</sup>限<sup>ル</sup>

第四百二條 指圖證券ノ發行人ハ呈示人ノ真

偽ヲ調査スルノ權利アルモ其義務ナ<sup>シ</sup>然<sup>レ</sup>



氏惡意又ハ甚シキ怠慢ニ付テハ此カ為メ損  
害ヲ受ケタル者ニ對シテ其責ヲ負フ

第四百三條 指圖證券ノ發行人ハ前二條ノ旨  
趣ニ從ヒ自己ニ屬スル抗辯又ハ證券面ヨリ  
生スル抗辯ニ依ルニ非サレハ義務ノ履行ヲ  
拒ムトヲ得ス

第四百四條 裏書讓受人カ裏書讓渡ニ因リテ  
受取りタル物ニ付キ如何ナル權利ヲ有スル  
ヤハ裏書讓受人ト裏書讓渡人トノ間ニ取結  
ビタル契約ノ旨趣ニ依リテ之ヲ定ム  
第四百五條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅  
失シタル指圖證券ハ裏書讓渡アリタルト否  
トヲ問ハス民事訴訟法ニ從ヒテ權利者之ヲ

無効トスルノ手續ヲ爲ストヲ得

第四百六條 切手切符其他ノ無記名證券ハ交  
付ノシテ以テ之ヲ他人ニ轉付スルトヲ得此  
等ノ證券ニ因リ所持人カ發行人ニ對シテ有  
スル權利ハ其證券ニ記載シタル旨趣又ハ法  
律命令若クハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム



第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人  
及運送人

第一節 總則

第四百七條 代辦人、仲立人、仲買人及運送取扱人ノ權利義務ハ第七章第六節ニ掲ケタル原則ニ從ヒテ之ヲ定ム但下ノ數條ニ別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二節 代辦人

第四百八條 代辦人ハ商事ニ於テ他人ノ代理ヲ為スヲ營業トスル商人タリ  
代辦人ハ或ル營業者ノ代辦店ノ業務ヲ取扱フ為メニモ之ヲ置クヲ得  
第四百九條 代辦人ハ自己ノ計算ヲ以テ商業



其他ノ職業ヲ行ヒ又數人ノ代理ヲ引受クル  
 了ヲ得然レモ一箇ノ取引ニ付キ同時ニ雙方  
 ヲ代理スル了ヲ得サルヲ通例トス  
 第四百十條 代辦ノ契約ハ一箇ノ取引ノ為メ  
 又ハ一種類若クハ數種類ノ取引ノ為メ有期  
 ト無期ト又明示ト黙示トヲ問ハス之ヲ取結  
 フ了ヲ得又其契約ハ何時ニテモ一方ヨリ之  
 ヲ解ク了ヲ得然レモ其契約ヨリ生シタル權  
 利及ヒ過失ニ出ツル解除ニ因リテ被ハラシ  
 メタル損害ヲ賠償スルノ義務ハ契約ヲ解キ  
 タルカ為メニ妨ケラル、了無シ  
 第四百十一條 代辦人ハ特ニ委任者ノ求ナキ  
 モ其委任セラレタル取引ノ範圍内ニ於テ委

任者ノ利益ヲ謀ルノ義務アリ然レモ満期ト  
 為リタル自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ  
 其任務ヲ續行スル了ヲ要セス  
 第四百十二條 委任者ニ對スル代辦人ノ代理  
 權ノ範圍ハ委任者ヨリ與ヘタル委任又ハ事  
 後ノ承諾ニ依リテ之ヲ定ム常囑ノ代辦人ニ  
 在テハ其事後ノ承諾ヲ以テ引續ノ委任ト着  
 做ス但反對ノ情況又ハ明示アル片ハ此限ニ  
 在ラス  
 第四百十三條 代辦人ハ明示ノ委任ヲ受ケル  
 ニ非サレハ契約ノ取結ヲ為ス了ヲ得サルヲ  
 通例トス  
 第四百十四條 取引ノ取結ヲ為スノニ委任



ヲ受ケタル代辦人ハ支拂ノ金錢若クハ差戻  
ノ商品ヲ受取り又ハ異議ヲ承諾スルノ權利  
ナシ

二ノ四

第四百十五條 代辦人ハ別段ノ委任ヲ受クル  
ニ非サレハ和解契約ヲ取結ヒ又ハ訴訟ヲ為  
スノ權利ナシ

第四百十六條 商品ノ引渡其他契約履行ノ為  
メ委任ヲ受ケタル代辦人ハ其代價ノ支拂ヲ  
受クルノ權利アリト着做ス但委任者其反對  
ヲ明示シタル片ハ此限ニ在ラス

第四百十七條 代辦人ハ其取扱ヒ又ハ取結ヒ  
タル取引ニ関シテハ過失アル片又ハ別段ニ  
義務ヲ負擔シタル片ニ限り第三者ノ支拂資

力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ其別段  
ニ義務ヲ負擔シタル場合ニ於テハ第二百八  
十八條ノ規定ヲ適用ス

第四百十八條 常囑ノ代辦人其行為ニ付キ第  
三者ノ問ニ對シテ已レニ其權アリト明言シ  
タル片又ハ其行為カ慣習上委任ノ範圍内ニ  
在ル片ハ委任者ハ善意ナル第三者ニ對シテ  
責任ヲ負フ

第四百十九條 代辦人其行為ニ付キ第三者ヨ  
リ口錢報酬又ハ償金ヲ受クル片ハ之ヲ委任  
者ノ計算ニ歸ス可シ然ラサル片ハ委任者其  
行為ニ付キ責任ナシト述フルヲ得

第四百二十條 代辦人ハ自己ノ受取ル可キ手

二ノ五



法律

數料、前貸金、立替金、費用及ヒ利息ノ為メ第三  
百八十九條及ヒ第三百九十條ノ規定ニ從ヒ  
委任者ニ對シテ留置權ヲ有ス又其現ニ支拂  
ヒタル立替金及ヒ費用ニ付テハ商慣習又ハ  
實際ノ必要ニ依リ又ハ委任者ノ利益ノ為メ  
正當ト認ム可キモノニ限り之ヲ委任者ノ負  
擔ニ歸スルヲ得

第三節 仲立人

第四百二十一條 仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケ他  
人間ノ商取引ノ媒介ヲ為スヲ營業トスル商  
人ニシテ取引所ナキ地ニ於テハ商品、有價證  
券、貨幣及ヒ為替ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニ  
スルノ專權ヲ有ス其但仲立人ノ行為ハ總テ公

用アル

第四百二十二條

ノ商取引ノ為メニ認可セラル、丁ヲ得  
ノ商取引ノ為メニ認可セラル、丁ヲ得  
ノ商取引ノ為メニ認可セラル、丁ヲ得

仲立人ハ仲立營業外ノ商業ヲ為ス丁ヲ得ス

然レモ其地ノ情況ニ因リテ二箇以上ノ仲立

營業部類ヲ一人ニ兼ネシムル丁及ヒ仲立人

ヲシテ取引所ニ於テ其營業ヲ為サシムル丁

第四百二十三條

ヲ官ヨリ又ハ取引所定款ニ於テ許ス丁ヲ得  
第四百二十三條 何人ニテモ年齢満二十五歳

ニ達シ少ナクモ五年間一般又ハ其部類ノ商

ニ從事シ且聲聞ニ瑕瑾ナキ者ニ限り仲立人

ト為ルヲ得但破産シタル者ハ復權ヲ得タ

ル後ニ非サレハ仲立人ト為ルヲ得ス  
ニ、七



第四百二十四條 仲立人ハ其業務ヲ始ムル以前ニ保證金ヲ差出ス可キモノトス其額ハ各地及ヒ各商部類ニ二箇以上ノ仲立營業部類ヲ兼示シムル場合ノ為メ省令ヲ以テ之ヲ定ム然レモ二萬圓ヲ超ユルヲ許サス

第四百二十五條 仲立人ノ員數ハ各地ノ為メ及ヒ其地ノ各商部類ノ為メ其需用ニ應ヒテ之ヲ定ムルヲ得

第四百二十六條 仲立人ハ其資格アル者ニ其營業ヲ讓渡シ又ハ相續セシムルヲ得ルト

雖モ其承継人ハ官ノ認可ヲ受ケ及ヒ保證金ヲ差出シタル後ニ非サレハ其營業ヲ行フヲ得ス

第四百二十七條 一地ノ仲立人又ハ一地ニ於ケル或ル商部類ノ仲立人十人以上アルハ其仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケタル後組合ヲ成

スルヲ得此場合ニ於テハ其組合中ヨリ一介年ノ<sup>任</sup>期ニテ少ナクモ三人ノ取締役ヲ選舉ス

可シ總テ其地ノ仲立人ハ此組合ニ加入スルノ權利及ヒ義務アリ

第四百二十八條 仲立人及ヒ仲立人組合ハ其通計算ヲ以テ仲立營業ヲ為スルヲ許サス之

ニ背リキハ仲立人ニ在テハ其營業ヲ禁止シ

組合ニ在テハ其組合ヲ解散シ尚ホ其組合員

ノ營業ヲ禁止ス然レモ仲立人組合ハ其組合

定款ニ從ヒテ各組合員ノ為メニ共同保證ヲ



引受クルトヲ得  
 第四百二十九條 仲立人組合ハ多数決ヲ以テ  
 其營業ヲ行フ為メノ定款ヲ設ク可シ此定款  
 ハ商業會議所及ヒ取引所又ハ其一ノ存スル  
 地ニ在テハ其承諾ヲ經且官ノ認可ヲ受リル  
 トヲ要ス但各組合員ハ其定款ヲ遵守スルノ  
 義務アリ  
 前項ノ規定ハ定款變更ノ場合ニ於テモ之ヲ  
 適用ス  
 定款ハ法律、命令、商慣習及ヒ其地ノ取引所定  
 款ニ背戾スルトヲ得ス  
 第四百五十條ノ規定ハ取締役ノ決議ニ付テ  
 モ之ヲ適用ス

第四百三十條

取締役ハ左ニ掲クル権利及ヒ

義務アリ

- 第一 仲立人カ其職務範圍内ニ屬スル取  
引ニ於テ法律、命令及ヒ仲立人組合定款  
ヲ遵守スルヲ監視スル
- 第二 組合員中ニ違反者アルキハ之ヲ懲  
責シ且必要ノ場合ニ於テハ其處罰及ヒ  
除名ヲ申立ツル
- 第三 取引所ナキ地ニ於テハ各組合員ヨ  
リ提出スル償書ニ基キ少ナク凡一週日  
毎ニ為替相場及ヒ貨幣、商品並ニ有價證  
券ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスル
- 第四 其定メタル相場ヲ絶ヘス記入スル



為メ帳簿ヲ備ヘ且求ニ應シテ公定ノ相場書ヲ交付スル

第五 裁判所又ハ官廳ノ求ニ應シテ商ノ情況ヲ開陳シ又慣習ニ付キ意見ヲ陳述スル

第六 仲立人ノ認可及ヒ負數ノ増減ニ付キ意見ヲ陳述スル

第七 總テ組合内部ノ事務ヲ管理スル

第四百三十一條 仲立人ハ其媒介スル取引ニ於テ雙方ヲ代理スルノ權利アリ  
仲立人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ何人ノ委任ヲリ比之ヲ拒ム

第四百三十二條 仲立人ハ自己又ハ他人ノ計

十月廿三日

算ノ為メニスルモ自己又ハ他人ノ名義ヲ以テスルモ自己ニ直接又ハ間接ノ利害アル取引ヲ為ス

仲立人ハ他人ノ為メニ支拂若クハ保證其他ノ擔保ヲ受ケ又ハ為シ又ハ他人ノ為メニ商品ニ對シテ前貸ヲ為ス

仲立人ハ代務人又ハ商業使用人タルノ資格ヲ以テ他人ノ用ヲ辨スル

前三項ノ規定ヲ犯シテ仲立人ノ為シタル取引ハ總テ無効トス

第四百三十三條 仲立人ハ委任者ニ對シテ詳細完全及ヒ正實ニ必要ノ申告ヲ為ス可シ其申告ニ付キ殊ニ其媒介シタル取引ニ關シテ



ハ委任者ノ人違ニ非サルヲ、無能力者ニ非サル  
 及ヒ署名捺印ノ真正ナルヲ付キ責任  
 アルモノトス又其地ノ顯著ナル商人ニ於テ  
 人違ニ非サルヲ擔保スルニ非サレハ面識  
 ナキ人ノ為ノ又ハ之ニ對シテ取引ヲ媒介ス  
 ルヲ得ス

第四百三十四條 仲立人ハ委任者ノ求ニ應ジ  
 テ事ヲ秘スルノ義務アリ

第四百三十五條 仲立人ハ其媒介シタル取引  
 ニ付キ自ラ其商品ノ存在、品位及ヒ買主ノ支  
 拂資カヲ確認シ且其受取りタル雖形及ヒ見  
 本ニ相當ノ記號ヲ附シ其取引ノ結了スルマ  
 テ之ヲ貯藏ス可シ

第四百三十六條 仲立人ハ為替證券、其他ノ有  
 價證券ノ取引ニ付キ委任ヲ受クルハ賣主  
 ニ對シテハ證券ノ交付ヲ求メ買主ニ對シテ  
 ハ價額ノ少ナクモ百分ノ二十ノ前拂ヲ求ム  
 可キモノトス

第四百三十七條 仲立人ハ當事者ノ明言アル  
 片ニ限り取引ヲ取結フノ權アリ匿名委任者  
 ノ場合ニ於テハ取引取結ノ權限ニハ辨濟  
 又ハ報償ヲ受クルノ權ヲ併ヒテ與ヘタルモ  
 ノト着做ス

第四百三十八條 仲立人ハ違法若クハ制禁ノ  
 取引又ハ空取引ヲ媒介スルヲ得ス

第四百三十九條 仲立人ハ自ラ業務ヲ營ム可  
 キモノニシテ殊ニ取引取結ニ付テハ使用人



又ハ代理人ヲ用エル丁ヲ得ス  
第四百四十條 仲立人ハ其擔任義務ノ違背其  
他ノ過失ニ付キ委任者ニ對シテ損害賠償ヲ  
為スノ責ニ任ス

第四百四十一條 匿名委任者ノ為メ取結ヒタ  
ル取引ニ付テハ仲立人獨リ直接ニ請求ヲ受ク

第四百四十二條 仲立人ハ其取結ヒタル取引  
ノ要旨ヲ特設ノ日記帳ニ日日記入シ自ラ其

記入ヲ日日閉鎖シテ之ニ署名捺印シ且遲ク  
比翌日中ニ關係アル部分ノ謄本ニ署名捺印

シテ之ヲ委任者雙方ニ交付ス可シ但其謄本  
ハ指圖式ト為ス丁ヲ得旨趣

其一方ニ於テ右謄本ノ包有事項ニ對シテ異

議ヲ唱ヘ又ハ承諾スル丁ヲ肯セサル片ハ仲  
立人直チニ之ヲ他ノ一方ニ通知ス可シ但他

ノ一方カ匿名委任者ニ非サル片ニ限ル  
第四百四十三條 死亡シ又ハ退職シタル仲立

人ノ日記帳ハ仲立人組合ノ取締役ニ於テ其  
組合ナキ地ニ在テハ裁判所ニ於テ之ヲ預リ

置ク可シ  
第四百四十四條 仲立人ノ手数料ハ別段ノ定

例又ハ慣習ノ存スル場合ヲ除クノ外其取引  
終了ノ後ニ非サレハ之ヲ受クル丁ヲ得ス

手数料ノ額ハ仲立人組合定款又ハ慣習ニ依  
リテ之ヲ定ム

手数料ハ別段ノ契約又ハ慣習ナキ片ニ限リ



委任者雙方ヨリ各其半額ヲ拂フヲ通例トス  
 手数料ハ仲立人ノ過失ニ因リテ其契約ヲ相  
 當ニ履行セサルハ之ヲ拂フ丁ヲ要セス  
 第四百四十五條 仲立人カ適法ノ手数料ヲ超  
 過シタル報酬又ハ惠典ヲ委任者ノ一方ヨリ  
 受ケタルハ他ノ一方ニ於テ其取引ヲ無効  
 ナリト陳述スル丁ヲ得

第四節 取引所仲立人

第四百四十六條 取引所ハ取引所定款ノ規定  
 ニ從ヒテ商取引ヲ為ス所ノ公設場トス  
 第四百四十七條 相應ノ商ノ地ニ於テハ其  
 地又ハ其區域内ノ商人ニ於テ一般又ハ或ル  
 部類ノ商取引ノ為メ官ノ認可ヲ得テ取引所

ヲ設立スル丁ヲ得

第四百四十八條 取引所ハ取引場ヲ定メ定

款ヲ設ケ及ヒ取締役ヲ置ク可シ此諸件及ヒ  
 其變更ニ付テハ官ノ認可ヲ受クル丁ヲ要ス

第四百四十九條 取引所ノ事務及ヒ章程ハ特

別ノ法律命令アルニ非サレハ定款ヲ以テ之  
 ヲ定ム若シ其定ナキハ取締役其定款ニ準

據シテ之ヲ定ム

第四百五十條 取締役ノ決議ヲ不當又ハ有害

ナリトシテ異議ヲ述フル者アルハ農商務  
 省ニ於テ雙方ヲ審訊シタル後其理由ヲ示シ

テ之ヲ裁決ス

第四百五十一條 或ル商品ヲ小賣ノ外ハ取引



所ニ非サレハ商フヲ得サルトヲ官ヨリ規定スルトヲ得

此規定ニ違フ者ハ二圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四百五十二條 取引所ニ於テハ其賣買ヲ許サレタル商品ノ倉庫ヲ設置シ及ヒ指圖式ノ

倉荷證書ヲ發行スルトヲ得取締役又ハ取引所仲立人ハ其倉荷證書ニ對シテ前貸ヲ為シ

又ハ之ヲ買受クルトヲ得又ハ之ヲ買受クルトヲ得又ハ之ヲ買受クルトヲ得

第四百五十三條 取引所仲立人ハ特ニ取引所仲立人トシテ官ノ認可ヲ受ケ且保證金ヲ差

出しタル後取締役ヨリ其職ニ充テラル、モ

ノトス其仲立人ハ取引所ノ定款其他ノ章程ヲ遵守スルトヲ誓フ可シ

第四百五十四條 取引所仲立人組合ノ存在スル地ニ在テハ其組合取締役ノ中少ナクモ一人ヲ取

引所取締役ニ選ム可シ

第四百五十五條 取引所ハ其取引ノ範圍ニ應ズル員數ノ仲立人ヲ置ク可シ

第四百五十六條 本法中仲立人ニ係ル規定ハ取引所仲立人モ之ヲ遵守ス可シ

第四百五十七條 取引所仲立人及ヒ取引所ハ大藏者及ヒ農商務者ノ監督ヲ受ク

第五節 仲買人



第四百五十八條 仲買人ハ契約ニ從ヒ自己ノ  
名ヲ用ヒ他人ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ムノ商

人ヲリ  
第四百五十九條 仲買人ノ第三者ト取結ヒタ  
ル取引ノ効力ハ第三者ニ對シテハ委任者ノ

委任又ハ承諾ニ關係セズ  
第四百六十條 仲買人ハ委任者ノ與ヘタル委  
任ヲ遵守スルノ義務アリ其委任ノ踰越其他

ノ過失ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テハ委任  
者ニ對シテ其責ニ任ス

第四百六十一條 仲買人事情避リ可カラザリ  
シトト委任者ノ為メ更ニ大ナル損害ヲ防止  
シタルトト證明スル片ハ委任踰越ノ責ヲ

免カル但委任者カ明示又ハ黙示ニテ其委任  
ヲ必行ス可キトヲ指定シタル片ハ此限ニ在  
ラス

第四百六十二條 仲買人ハ委任踰越ニ因リテ委任  
者ノ損失ト為リタル物價ノ差額其他計算上

ノ差額ヲ自己ニ負擔スルヲ以テ委任踰越ノ  
責ヲ免カル、トヲ得ス

第四百六十三條 仲買人ハ委任ニ背クニ因リ  
テ委任者ノ利益ト為リタル物價ノ差額其他

計算上ノ差額ヲ自己ノ有ニ歸心トヲ得ス

第四百六十四條 第四百六十一條ノ規定ハ仲買  
人ニモ之ヲ適用ス殊ニ仲買人ハ取引施行ノ

前後ヲ問ハス常ニ遲延ナク委任者ニ必要ノ

ニノ二十三



報知ヲ為シ且運送、貯藏、保險、賣買其他總テ商  
業上ノ作用ニ付キ十分ニ所有者ノ利益ヲ謀  
ル可シ

第四百六十五條

仲買人ハ必要ノ前貸金ヲ運  
滞ナク交付セラレ又取引ヨリ生ス可キ自  
己ノ請求ニ對スル抵保ヲ有シ若クハ擔保ヲ  
得タルルルハ總テ其營業ニ屬スル委任ヲ引受  
クルノ義務アリ

第四百六十六條

仲買人委任ノ引受ヲ肯セサ  
ルルハ直クニ之ヲ委任者ニ通知シ且寄託ノ  
貨物ヲ適當ニ保存スルノ義務アリ若シ其通  
知ヲ為サルルルハ委任施行ノ責ニ任ス

第四百六十七條

仲買人ハ別段ノ契約ナキハ

ハ委任者ニ又ハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者  
ニ前貸ヲ為スノ義務ナシ然レモ委任者ノ承  
諾ヲ得タルルルハ又ハ其承諾ナキモ商慣習アル  
キハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸ヲ為  
シ又ハ信用ヲ與フルノ權利アリ

第四百六十八條

仲買人ハ第四百十七條ノ規  
定ニ從ヒ第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ  
對シテ責ニ任ス然レモ其責任ハ第三者カ責  
ニ任ス可キマテテ以テ限トス

第四百六十九條

委任者ハ仲買人ニ與ヘタル  
委任ノ未タ施行セサルモノニ限り何時ニテ  
モ之ヲ廢止シ又ハ變更スル得  
仲買人ハ第四百六十五條ニ規定依リテ委任ノ引



受ヲ拒ミ得ル片ニ限リ解約ヲ申込ムノ權利アリ但正當ニ其申込ヲ為シタル後ト雖モ惡意又ハ怠慢ニ付テハ委任者ニ對シテ仍ホ責ニ任ス

第四百七十一條 仲買委任ノ關係ハ一方ノ破産ニ因リテ終ル又死亡其他委任ヲ施行スル能ハサルノ事由ニ因リテハ此事由ニ基キテ其關係ヲ解ク一方ヨリ明言シタル片ニ限リ終ルモノトス

第四百七十一條 仲買人ハ仲買取引ノ外自己ノ計算ヲ以テ同種類又ハ他種類ノ取引ヲモ為スノ權利アリ  
前項ノ商人ニシテ仲買取引ヲ常業ト為サ、

ル者ニハ第四百六十五條ノ規定ヲ適用セス  
第四百七十二條 仲買人ハ委任者ニ於テ反對ノ明言ヲ為サ、ル片ハ其受ケタル委任ヲ買主、賣主又ハ其他ノ者トシテ自己ノ計算ヲ以テ施行スル丁ヲ得然レモ委任者ニ對スル自己ノ權利及ヒ義務ハ變更スル丁無シ

第四百七十三條 前條ノ場合ニ於テハ仲買人ヨリ委任引受ノ通知ヲ委任者ニ發送シタル時直クニ其委任ヲ施行シタルモノト着做ス  
第四百七十四條 仲買人ハ委任施行ノ後之ヲ委任者ニ通知シ其取引ノ賣得金ヨリ自己ノ取分ヲ引去リテ之ヲ委任者ニ支拂ヒ又ハ其計算ニ立ツ可シ



第四百七十五條

委任者ノ計算ヲ以テ買入レ  
又ハ引受ケタル商品ハ委任ニ他ノ定ナキ片  
ハ仲買人之ヲ委任者ノ處分ニ付ニ其處分  
ルマテ適當ニ貯藏ス可シ其商品ノ運送ヲ周  
旋スルノ義務アルハ明示ノ委任アル片ニ限  
ル但自己ノ留置權ハ此カ為メニ妨ケラレ  
ト無シ

第四百七十六條

仲買人ノ取引ニシテ委任者  
ノ承認スル義務ナキモソハ其承認ナキニ拘  
ハラス仲買人ノ計算ニ於テハ有効トス然レ  
モ第三百八十三條ノ規定ハ此カ為メニ妨ケ  
ラレト無シ又仲買人ハ委任者ニ總テノ損  
害ヲ賠償ス可シ

第四百七十七條

仲買取引ヨリ生シタル債權  
及ヒ債務ハ仲買人ノ直接ノ債權及ヒ債務ヲ  
ルヲ通例トス然レモ仲買人其債權ヲ委任者  
ニ讓渡シ又ハ支拂資カヲ失ヒタル片ハ委任  
者直ケニ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スル  
トヲ得

第四百七十八條

仲買人ハ委任者ニ為シタル  
前貸ノ償還ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ求ムルノ權  
利アリ

第一 必要又ハ有益ニシテ商慣習ニ適ス

ルモノニ限り現ニ支拂ヒタル費用及ヒ

立替金ノ辦償

第二 各地慣習又ハ契約上ノ仲買手数料